靈　讃　歌

作詩・作曲　鶴原　玉

イエス之御霊教会教団発行

序

村井　虫

靈讃歌は、主がわれらの教会に与え給うた讃美である。聖書の言う讃美には、「聖歌」と「靈歌」がある。靈歌とは、聖靈によって異言にて誦わしめらるる歌、この歌は、誦う者も聴く者も等しく天国の空気を味わわしめられて祝福を持ち来らす。聖歌も之と同じく、聖靈によって誦わしめらるる歌であるが、之は判る言葉をもて誦わしめらるるのである。然し、預言の如く我らの知識全からざる為に誤謬を持ち来らす事もあるが、主は我らの愛する鶴原玉夫人をあらゆるキリスト教の遍歴を許して聖歌を誦うにふさわしき器とならしめ、突如千九百五十八年にあまたの聖歌を賜わり、イエス之御靈教会の真の神の子達の誦うにふさわしきものとなさせ給うた。されば、我ら

靈をもて誦ひ（異言の歌）また心をもて誦はん（聖歌）

（コリント前書十四章十五節）

詩と讃美と靈の歌とをもて、互に教へ、互に訓戒し、恩恵に感じて、心のうちに神を讃美せよ

（コロサイ書三章十六節）

目次

1 イエスこそ真の友……6
2 すえつくり主……7
3 独子を賜う……8
4 ペンテコステ……9
5 主の降誕……10
6 クリスマス……11
7 ゲッセマネ……12
8 聖言は光……14
9 主の日は近し……15
10 選ばれし民よきけ……16
11 今は末の時……18
12 監督 異言のメッセージより……19
13 ディーズ アウェイ……20
14 エルサレム……22
15 ヨベルの年……24
16 起よ光をはなて……26
17 神の御殿……28
18 我らの教会……30
19 イエス之御霊教会教団……32
20 聖歌の花園……34
21 ある牧師の霊歌より……36
22 神の国……38
23 献堂式讃歌……39
24 あがない……40
25 主の酒杯……42
26 献金……43

27 献児式……44
28 癒し主……45
29 聖会行進歌……46
30 救いを得よ……47
31 勇ましく働け……48
32 シオンの娘よ……49
33 帰れわが子……50
34 進み行け……51
35 伝道……52
36 水と霊……53
37 受霊の悦び……54
38 友よ来れ……56
39 うれしきかな……57
40 誰か誰か……58
41 洗礼の意義……60
42 バプテスマ……61
43 礼拝……62
44 安息日……63
45 栄光主にあれ……64
46 讃美は我らの休息……66
47 箏よ琴よ歌え……67
48 讃美せよイエスを……68
49 讃美会……69
50 御霊を崇めよ……70
51 平和……72
52 ハレルヤ……73
53 聖徒と共に主を讃め称えよ……74
54 讃め歌え……76
55 昇天……78

56 召されし友よさらば……79
57 御国のすまい……80
58 美しき国……81
59 天国の山山……82
60 愛……83
61 身代り洗礼……84
62 祖先祭……86
63 平安……88
64 臨在のもとに……89
65 御霊のある所……90
66 主のふるまい……92
67 恵みの泉……93
68 懐しイエス君……94
69 かがやく朝……95
70 勝利の道……96
71 エデンの園より……98
72 あわれみ……99
73 一粒の麦……100
74 歌え若人……102
75 霊の戦い……103
76 イスラエルの神……104
77 祈りの歌……106
78 雨乞いの歌……107
79 汝の荷を主にゆだねよ……108
80 感謝祭……109
81 結婚式……110
82 祝福祭……112
83 聖なる族……113
84 年の始めに……114

85 新年礼拝……115
86 新年聖会……116
87 愛の家庭……117
88 親愛……118
89 聖徒の交り……120
90 御霊は一つ……121
91 信仰……122
92 主よ示し給え……123
93 霊の交り……124
94 愛の泉……125
95 求めよ尋ねよ……126
96 地よ恐るる勿れ……127
97 浜辺に立ちて……128
98 悲しみの日のために……130
99 病床の師を思う……131
100 神の助け……132
101 救いの幸……133
102 神は我らの避所……134
103 神はわが力……135
104 永遠の父よ……136
105 君はわが主……137
106 主は我が牧者なり……138
107 忍耐……140
108 世の光……141
109 ヨブを見よ……142
110 ソロモンと百合……143
111 愛と信仰……144
112 我に来れ……146
113 イエスいます……148

114 生命の聖言……150
115 奮い起て……151
116 子供のために……152
117 主を待つ……153
118 おはようさん……154
119 主の祈りを歌えば……157
120 伝言……158
121 予言によるイエスの誕生……159
122 古稀の祝によせて……160
123 故村井監督追悼歌……163
124 讃美したい子供のうた……164
125 ホザナホザナ……166
126 御恩は一生忘れません……169
127 イザヤ書三十五章より……170
128 我山に向いてめをあぐ……172
129 神は愛なり……174
130 聖徒の感激……176
131 栄光の王……178
132 大聖会……180
133 御足の跡……182
134 誕生祝い……184
135 世に知られぬ喜び……186
136 天界の声、地界にこだます ある聖徒の祈り……188
137 証の幕屋……190
138 大感謝……192
139 恩寵の御翼(詩91より)……194
140 教訓(詩第一篇)……197
141 新生の春……198
142 主による信仰の望み……200

143 世界の果まで……202
144 主を慕いて……204
145 ハレルヤ歌わん……206
146 いやされたり……208
147 神癒の聖歌……209
148 王の王なる主……210
149 みたまの声す……212
150 証し人……214
151 母を偲ぶ月……216
152 終りに……217
153 我等の望み……218
154 私の神様唯一の主(その一男子用)
私の神様唯一の主(その二女子用)……220 222
155 天上の讃美……224
156 エルの神……226
157 恵みの御座……228
158 神の子の歌……230
159 羔羊なる主を崇む……232
160 復活の朝……234
161 汝らは世のものならず……236
162 祝福を受けよ……238
163 迷える者よ来たれ……240
164 祈りの家……242
165 死線を越えて……244
166 御霊の愛……246
167 群衆の行進歌……249
頌栄……250
作者の言葉……251

1 イエスこそ真の友



一

イエスこそ真の　救い主
智恵と能力との　贖い主
憂いと悩みに　囲まるるとも
なぐさめ励ます　愛の友

二

イエスこそ真の　愛の友
親しき友どち　離るるとも
主はとこしえまで　見捨ず
限りなき愛を　注ぎたもう

三

主は近くまして　囁きたもう
「我ここにあれば　安らえ」と
御傷の御手に　釘の跡
今日も従えと　示し給う

四

イエスこそ御神の　羔羊なれ
罪愆せおいて　死にたまい
御業をなしとげ　甦りたもう
ハレルヤ歌いて　ほめ称えん

五

今主はわが身を　宮として
新婦の備え　なしたもう
生命の書に　わが名を記し
とこしえ変らず　愛し給う

2 すえつくり主



一

陶工ぬしなる　わが主よ
君の御性を　慕いまつる
塵に等しき　わがために
御国の幸を　与えたもう

二

創造の君なる　わが主よ
天地ものみな　主を仰ぐ
富士の高嶺も　湖も
君の御国の　かがみなる

三

十字架に死にて　よみがえり
神の御座位の　右に座し
虫に等しき　われらをば
御像の如く　作りたもう

四

始めに在して　おわりなる
とうとく気高く　清らけき
わが君イエスを　友として
栄光の御国へ　歌い行く

3 独子を賜う



4 ペンテコステ


1. ひけはよよ はははきれれ
2. のらとのー ちいむよた
3. テひびもの たれそたき
4. スてルしも しいににに
5. ペまイえま でせ主主主
ぬるりしう
ぎおだたなも
あくみりた
をまとわち
主あうかま
しくをにて
りーーーー
えとこえし
がごはしが
みーのーー
よのくこな
りおやとち
よのいはん
しほけ主お
とととはてと
よよいりよ
主主わさ主
ががざえが
わわわきわ
ヤヤともヤ
ルルみきル
レレやげレ
くりそしり
ハハななハ
ヤヤともヤ
ルルれいル
レレそまレ
ハハおやハ
つむぬるちん
まがみらみ
をあしめび
まーーーこ
たをるよろ
み主くきよ
そよおちよ
くにをのに
やんらかま
のげれじた
ーーいおー
のててにて
主いか十み
ペンテコステの日 弟子達は
死より甦りし 主を仰ぎぬ
ハレルヤハレルヤ わが主よと
主のやくそくの 御霊を待つ
聞もなく天ひらけ 聖霊は
ほのおの如く 天くだる
ハレルヤハレルヤ わが主よと
異言によりて 主を崇む
イスラエル人は 主にそむき
契約の櫃を うとみたり
恐怖と患難と 災禍は
彼らをおそいて 苦しみぬ
選ばれし者よ 主にたよれ
主はとこしえに 変りなし
病いも歎きも 消え去りて
十字架の血汐に 清められる
迷える者よ 主に来たれ
御血流して 待ち給う
ハレルヤハレルヤ わが主よと
御霊によりて 喜悦みちん

5 主の降誕



一

御栄光ときわに　輝きぬ
御稜威はあまねし　神の国
御使仕えて　主を崇め
博士は貢を　おさめたり

二

ダビデの裔より　あらわれぬ
神なるキリスト　生れたり
ユダヤの野辺は　輝きて
平和の福音　きこえけり

三

仰げば大空　輝きぬ
御使たたえぬ　嬰児を
「神には御栄光あれ」と歌う
「人には恵みのあれ」と歌う

四

歌えよ称えよ　主なる神
智恵と能力との　救い主
崇めまつらなん　人の子ら
天より賜いし　イエス君を

6 クリスマス



一

星かげさむき　ユダヤの野辺に
羊飼いの群　博士と語ろう
かがやく光　闇を照らして
羊の群は　怖じまどいけり

二

君を慕いて　み空仰げば
一つの星は　光りまばゆし
主は来ませりと　み告げ受けにし
羊飼いらは　怪しみにけり

三

馬槽の中に　生れ給いし
羔羊なる主は　救い主なり
天には栄光　地には平和
人には恩恵　あれと歌いぬ

四

跛者は立ち　盲目は開け
労れし者らは　安息を得たり
滅びの子らは　贖いうけて
御国の世嗣の　証たまえり

7 ゲッセマネ



一

ああああ 遂に来ぬ
ゲッセマネの園は 涙に暮れぬ
神の独子は 血の汗流し給う
この苦き酒杯を 我より取り給え
されど御意を 成させ給えと

二

ああ主は 御弟子呼び
「惑いに入らぬよう 祈れ」と宣給う
御弟子の一人は 主を裏切りゆきぬ
一人だに主を愛し 従いし者なし
されど御使は 来り仕えぬ

三

ああ十字架 背負いて
カルバリの丘を 登るは誰ぞや
茨の冠に 鞭のあとを見よ
独子を賜うほど 我を愛しませり
されば我なにを なして報いん

8 聖言は光



一
聖言はげに　わが足の燈火
憂いの雲　とざす時も
悩みの河　渡るおりも
力となり　智慧となり
希望の　光を与う

二
聖言はげに　わが足の燈火
茨の道　われをふさぎ
けわしき坂　のぼる日も
愛の御手もて　導き給う
かわらぬ　あかつきの星

三
聖言はげに　わが足の燈火
嵐吹きて　波立ちさわぎ
行手くらく　怖じまどうとも
救いの舟　漕ぎよせ来て
目あての　港につかしむ

9 主の日は近し



一
喜ばしき声合わせ　うたいて進まん
我らの君なるイエスは　先立ち給う
（おりかえし）
喜びの声をあげて　歌わん歌わん
主の日は近しと叫べ　大声あげて

二
救いの門開けたり　ハレルヤ歌わん
イエスの聖名に頼る者　勝利をうべし

三
陰府の門は開けたり　ハレルヤ歌わん
死の刺いまは何処ぞ　来りて見よや

四
御霊は我が衷にあり　ハレルヤ歌わん
永遠の生命いまぞ　我がものとなる

五
新郎来ませば我ら　備えして待たん
油はととのえられぬ　主よとく来ませ

10　選ばれし民よきけ



一

選ばれし民よきけ　終りのラッパ鳴らんとす
来れ来れ　天地はどよめかん
神の経綸（けいりん）　ダニエルの予言
早も来る　おののきおそれよ

二

主を知らぬ民よきけ　終りのラッパならんとす
来る来る　盗人（ぬすびと）の如くに
神のさだめぞ　のがるるを得じ
神にかえれ　戸の閉ざさぬまに

三

無花果（いちじく）の葉芽（めぐ）めば　その時の近きを知れ
雲に乗るは　さばき主（ぬし）なる主
ふるいおののけ　その時のため
今は末の　恵みの時ぞ

四

感謝讃美の声は　救いうけし者のみぞ
新天新地　ここに開け行く
羔羊（こひつじ）たかく　御位（みくらい）につき
滅びの子ら　ついに消え失せん

五

見よや義の太陽は　東の空高く昇り
暗きかげは　ややに消え行く
聖霊来りて　人を活（い）かしめ
神の国の　世嗣（よつぎ）らは歌う

11 今は末の時



一
今は末のとき 今は末の世
悪魔は必死に 汝れを窺う
(おりかえし)
再臨近し再臨近し 備え如何や
再臨近し 備えいかにや

二
今は末のとき 今は末の世
国は国を攻め 人は争う

三
主は宣給いけり「その日近し」と
選ばれし者を 集めんために

四
新郎来ませど 愚かな乙女
油尽きければ 暗黒きに泣きぬ

五
賢き乙女は 備えして待ち
新郎なる主に ほまれうけたり

12 監督 異言のメッセージより



一
さめよさめよさめよ さめよさめよさめよ
今は眠りより 目覚むべき時なり
もろびとさめよ あしたはちかし
暗夜すぎて あしたはちかし

(おりかえし)
夜はふけわたり 朝ちかづく
起よ起よ 時はちぢまれり

二
さめよさめよさめよ さめよさめよさめよ
斥候は叫べり さめよ眠れる者
陰府の人人 かしらもたげよ
永遠の王なる主 叫ぶ

三
さめよさめよさめよ さめよさめよさめよ
イエスは速かに 来り給うなりと
かしこき乙女 燈をともしけり
疾く起きて 主を待ちのぞめ

13　ディーズ　アウェイ



ディズアウェイ　ディズアウェイ
ディズアウェイ　ディズアウェイ
世終りなん　日は暗く
月は血に変り　闇天をおおう
王は岩穴に伏し　娘地に泣き叫ぶ
大波山を越え　人くるいて死す
ディズアウェイ　ディズアウェイ
ハレルヤ　主は活(い)きたもう
天地は失(う)せ　四方(よも)は暗く
日は光を　失う
されど　我が言(ことば)は失(う)せじ

14 エルサレム



一

エルサレムエルサレム　我らの国
エルサレムエルサレム　シオンの都
王なる君は　あもりまして
我らは歌うなり　とこしなえに
聖なる聖なる　我らの国
聖なる聖なる　君の都

（おりかえし）
ハレルヤを　歌う声は
神の御座位に　のぼりゆく

二

世界の果てまで　鳴りとどろく
主イエスの福音　今やなりぬ
御名によれる　バプテスマ
ほのおと燃ゆるは　主の御霊ぞ
磐なるキリスト　内にあれば
言葉も新たに　君を崇む

三

主イエスの再臨　はやも来なば
備えはいかにや　わが友どち
御使らは　雲に乗りて
稲妻の如く　主来り給う
備えよ備えよ　その日のため
油をととのえ　君を待ちなん

15 ヨベルの年



一

国をあげて喜べ　ヨベルの年はきたる
奮い起て主の子ら　イエスの御霊は降りぬ
大能と智慧との　神の国
シオンの山に　高くかがやきわたる

二

レバノンの香柏　山山にかぐわしく
新婦の姿も　清けくにおいぬ月の夜
清らに安らに　流れくる
泉のほとりは　讃美の声にて賑わし

三

輝く朝日かげ　エルサレムに照り出で
おのこらは歌えり　イエスこそ我らの王なりと
勇みてたたかえ　世の罪と
十字架に勝ちにし　主の御跡に従いて

四

ハレルヤ声高らに　万軍の主を称えよ
その名は奇妙なり　議士又平和の君なり
労れし者らは　安息を得
弱き者らは　驚のごと舞いかける

五

千年王国きたらば　新婦らは集いて
御使もろともに　御国の饗宴楽しまん
歌えど尽きせぬ　主の恵み
民みな称えん　ハレルヤも声たかく

16　起よ光をはなて



一

起よ光をはなて　主の栄光汝にてりいでぬ
汝の子らは　海をわたりて
汝に来り　乳香没薬ささげまつる
タルシシの舟は　宝をみたし来て
主の御名にさかえを　帰しまつる

二

ほめよ主の御名ほめよ　万軍の主再臨なし給う
捕われし子ら　解きはなたれぬ
ケダルの羊　群れつどい来らんイエスのもとに
羊飼いらは　泉のほとり
天のエルサレム　さして進む

三

歌え声高らかに　勝利の君の御旗のもと
千年王国　やがて来らば
我らは王の　御前に立ちいでて世をさばかん
心にみつる　ほめ歌は流れて
エルサレムの　幸あふるる

四

伝えん霊なる讃歌　十字の御旗たかく昇りけり
罪のゆるしと　救いの道は
ここに開きて　昔もひとしく聖霊来れり
心の平和　愛にもゆる光
太陽の如くに　かがやき出ず

17 神の御殿



一

主イエスの御名に　建てられし御殿
真理の奥義を　示さる御殿
輝く御顔を　仰ぎ見て
ほめ歌うたわん　とこしえに

二

十字架のもとに　建てられし御殿
聖なる都の　エルサレム
シオンの娘ら　つどい来て
歌えどつきせぬ　幸あふる

三

わが主の御顔　拝せばや御殿
真珠の柱に　金の屋根
かがやくあしたを　夢みつつ
憩うこの家の　素晴らしさ

四

「美しの門」　くぐりし折しも
イエスの御霊は　あもり来て
渇きし浮世は　うるおいぬ
やがて訪れん　栄光の雲

五

永世の契り　たまいし御霊の
崇められ給う　神の御殿
讃美は泉と　湧きあふれ
生命のもとなる　主にまみゆ

18　我らの教会


1. むいカ主あ　ものリこく　もにのばに　まずまわち　いみやなに　かうくたつ　ーーーかーー　わるもれど　くててめら
2. かずルーん　しみバおそ　いまずまわち　りおはとう
3. みいさきひ　かーえよび　をうしきに　みこにけ主　うめかにて　ーずじーー　とすーちり　しこ十とよ　なきかたあ　すやたのみ　えさよとぐ　こさみみめ　りぬしつり
4. こあみそカ　ずわたのン　えれまなラン　にみのにの　うきにのく　とかぜスと　うふかイご　ーかれりー　ずもゆあゆ　ーーーーー　すおはまち　まののただ　や主こみそ　めげててき
5. わうめきそ　れつぐせせ　らるみきん　はははのとも　てここふと　んことしも　のにばぎに　めりくりり　ずあゆえべ　すいえなこ　まくたもろ　やすつとよ
（後唱）
うう　たけ　えよ　うう　たけ　えよ　みみ　すす　くく　いい　をを
みみ　ずず　はは　いい　けけ　るる　かみ　わず　いち　のの　ちお　のし　いな　がず　みれ

一

昔も今も　変りなく
御神を慕う　声すなり
梢に歌う　山すずめ
我らは天の　山すずめ

二

泉の水に　うるおいて
憩う小雀　ささやきぬ
憐れみ深き　主の面影
うつるはここに　救いあり

三

カルバリ山の　雲晴れて
さえにし十字架　見よ高し
御霊の風に　木の葉ゆれて
恵みの言葉　伝え行く

四

主行なわば　誰かとどめん
聖けき土地に　御殿たつ
その名にイエスの　御霊ありて
奇跡と不思議　ともなえり

五

安息日に　集う子ら
日日主によりて　恵みあり
カンランの如く　育ちゆき
祖先もともに　喜べり

（後唱）
歌え歌え　御救いを
水は活ける河　生命の泉
受けよ受けよ　御救いを
水は活ける水　血汐の流れ

19　イエス之御霊教会教団



一

歴史も古き　昔より
主による選びの　国民(くにたみ)ありき
衣は古びず　疲れもあらで
旅路はるけき　カナンを望む

二

紅海わたれば　水あふれて
敵(あだ)は亡びぬ　感慨無量
朝ごとマナは　降りしきて
岩より真清水　流れ出でぬ

三

雲の柱に　火の柱は
彼らを導き　先立ちゆけり
シオンの山にて　主にまみえたる
モーセは輝き　顔をおおいぬ

四

イエスこそ真の　救いの神
律法(おきて)の書(ふみ)は　十字架にあり
老いも若きも　御霊(みたま)をうけて
恵みにひたりぬ　世世の経綸

五

御霊(みたま)の教団　現れたり
日出(い)ずる国より　炎は燃えぬ
主を知る知識に　祝福ありて
栄光かがやく　臨在仰ぐ

六

イエスの御名(みな)に　水清まり
血汐は流れて　罪潔められる
御霊(みたま)の証しは　奇跡ともない
携(たずさ)えあげらる　日ぞ待たるる

20 聖歌の花園



一

聖歌の花園　与えられたり
未だ花開かず　蕾多かり
はたらき人も　主人もなし
菊の葉乱れ　茂りいたり

（おりかえし）
手入れ怠る勿れ　急ぎ働け
花みな開けば　主来り給う

二

主より賜わりし　花園なれば
喜びて歌わなん　恩寵の花
巨万の富も　こうを得じ
忍びて励み　与えられたり

三

花みな開けば　ふるまいなりて
御使と共に　ハレルヤ歌わん
慕いまつりし　イエス君を
ここに迎えて　歌い楽しまん

21　ある牧師の霊歌より



一

造り主をおぼえて　感謝と讃美せよな
こは流しませる　血汐の顔ばせなれば
歌は流れ来りぬ　御国の門開けて
安きは内に　みなぎり溢るる

二

恵みと憐れみに　富み給う主イエスよ
さだめなき世より　御許に導き給え
鹿の谷川の水　したいあえぐ如くに
我らは活ける　主の御名を呼ぶ

三

妙に奇すし御救い　わが内になりたれば
カルバリの丘に　シオンの花咲けり
香ぐわしく開きたり　水の流れのほとり
乙女の姿に　さもにたるかな

四

呼べば答え給える　聖けき王なる主よ
かよわき我らを　助け導きたまえ
憩いのひとときは　素晴しく輝ける
宝石を散りばめし　王宮なるぞかし

五

ハレルヤハレルヤと　聖徒らの歌声は
山山にひびき　こだまは返り来る
望みの光さして　朽ちぬ生命を衣たる
喜びの露に匂う　子らに幸あれや

22 神の国



一

輝く御位を　仰ぎのぞみて
永遠の幸い　歌わざらめや
神の羔羊イエス　贖いたまえり
御栄光永久にあれ　イエスの聖名に

二

昼となく夜となく　慕いまつりし
愛するイエス君を　仰ぎまつれば
み冠は輝き　ひれふし拝む
御使の歌声は　四方にひびけり

三

黄金の御殿に　珠玉のかざり
金の香炉の　かぐわしきにおい
これぞ流しませる　血汐のかおり
聖徒らほめ称えぬ　贖い主を

23 献堂式讃歌


1. ためけいす
2. うほさえす
3.
4.
5.
えよべこめ
ためけたす
うほさうす
えよべえめ
わイみハみ
れエたレは
らスまルた
かみうたざ
ののよヤか
ををにくて
みなちかし
1.〜4. わもれろ
5.
おもころ
ばらわたかなの
たみれくからに
ととかかりとに
ごれわとりしわらみかいああたひま一一一たとてのちいつっにきくはしりしとみれなさこくこいんみかこせかばこもつあとるろべきなとやせふれなせらるりしよるんみめちどみとち
そしちみくのんを一一いじもくら
こいいみみ
と一まなずをまだのと
めにずにのじこ一えいはこみゆれ
し一一にんなみきよし
うりをりうもてとけとたたこやたげのぬがをととかかりとに
歌え歌え　我等の神を
其の云い給いし如く　御言葉なれり
我行わば　誰か止どめんと
事を初め　なしとげ給う

二

ほめよほめよ　イエスの御名を
真実と憐れみは　欠くる事なし
我行わば　誰か止どめんと
今ここに　御殿建てり

三

さけべさけべ　御霊よ内に
血を以て洗われし　心もやせよ
我行わば　誰か止どめんと
未だ見ず　聞かぬ事を

四

栄光歌え　ハレルヤ高く
御国の民となり　聖別せらる
我行わば　誰か止どめんと
御名の故に　世に輝やけり

五

進め進め　御旗かざして
暗き地光りさし　歓喜あふるる
諸諸の宝　御倉にみちみち
水と霊の　真理をたとう

24 あがない



一

イエスは見失せたり　我らのために
イエスは見失せたり　我を愛して
とこよの生命　与えんために
昇り給いけり　あがないなして

二

茨の冠は　我らのためぞ
打たれたまいしは　愛のゆえなり
天つ御国に　住まわしめんと
定めたまいける　聖旨なりけり

三

イエスはパンをさき　弟子らに与え
これは我が体　とりて食せよ
甦るべし　我が肉なれば
十字架を負いて　我に従え

四

イエスは葡萄酒を　手にとりたまい
これぞ汝がために　流す血なれば
いさみて飲めよ　我は許さん
とこしえまでも　犠牲とならん

五

希望は失せしや　さにはあらず
予言の成就を　なさんためなり
三日の後に　我は活きん
汝ら再び　我を見るべし

25 主の酒杯



一
貴きかな　主の血汐
十字架の上に　流したもう
かぎりなき　愛のかがみ
あな尊し　愛のかおり

二
千代よろずよに　称えばや
我が全てを　許したもう
貴き血に　さかえあれ
あな慕わし　愛の泉

三
重き十字架　背負い来て
カルバリの丘　慕い行き
わが軛　離たれぬ
あな奇しき　御血の泉

四
我に賜える　十字架を
負い果てなば　主にまみえ
永遠に　主を称えん
御腕により　憩わまし

26 献　金



一
献げまつる　この宝
御手におさめ　給えかし
聖めわかちて　もちいませ
ただ一筋の　真心を

二
喜びもて　この感謝
献げまつりて　憂いなし
貴きものに　もちいらる
みさかえとわに　輝かなん

三
献げまつる　この心
御座の前に　のぼりなば
天の扉は　ひらけゆき
「恵みあれ」と　御声聞こゆ

四
神の家の　子となりし
我ら一つの　心もて
御旨のままに　したがわん
喜びとわに　尽きせざれ

27 献児式



一

世の始めより　選びわかたれ
召命をこうむる　わが家に生れ
ときわかきわに　幸わいたもう
主の御慈愛に　我らひれ伏す

二

イサクをささげ　信仰の父と
嘉せられし　アブラハム
われらもすべて　彼にならいて
賜いし吾子を　御前に献ぐ

三

今よりのちは　一家こぞり
主の御前に　かしこみ拝し
聖書学びて　御旨にかのう
聖き御民の　群にぞつづかん

四

イエスの御名に　立てられたれば
罪の力　世の荒波も
おそい来らず　安けく渡り
泉のそばの　木のごと栄えん

28 癒し主



一

御霊はわれらの　癒し主
心の痛みも　胸のなやみも
癒し給うなり　奇しき力もて
信ぜよ信ぜよ　癒しの能力

二

御霊はわれらの　癒し主
病いに襲われ　伏せる時も
御手をおきて　癒し給うなり
祈れ祈れ　油をぬりて

三

癒す能力は　イエス君にあり
主に依て祈れば　医えぬ者なし
御名の能力を　信ぜよ我が友
頼れたよれ　生命の君を

四

盲人はひらかれ　跛者は立ち
熱病は医え　娘は活きぬ
死の病いをも　赦す主にませば
見よ奇跡と　癒しの能力

29 聖会行進歌



ここでわれら
主を讃め称えん
われらはその民
その牧の羊よ
ここでわれら
主を讃め称えん
われらは
まきばの群よ
ハレルヤハレルヤ
おおいなる御救い
ここでわれら
主を讃め称えん
われらは
まきばの群よ

30 救いを得よ



一

幸あれ幸あれ　イエスの国
罪の世界を　照らしつつ
ほろぶる者を　救わんため
十字の御旗　ひるがえせ

二

称えよ称えよ　イエスの聖名
救いの御業は　なされけり
御霊を賜いて　勝ち進む
勝利は永遠に　かがやけり

三

求めよ求めよ　水と霊
人みな生かされ　平安あり
千軍万馬の　いきおいは
世界の果に　とどろかなん

31 勇ましく働け



一

勇ましく働け　御国の世嗣らよ
御霊衷に在せば　我らは主のもの
利き鎌をとぎ　刈入れをいそげや
終りをいそげ　畑はみのりぬ

二

勇ましく戦え　主の兵者どもよ
終りのラッパ鳴らん　朝は近けれ
ギデオンの三百　歌いて勝利を得よ
黄泉の長らは　ふるいおののかん

三

主行うときは　誰か止むるを得ん
讃美の勝歌に　エリコの城落つ
御霊の剣　悪魔を征め伏せて
勝利もたらすは　主偕に在せば

32 シオンの娘よ



一

シオンの娘よ　かえりきたれ
世に勝ちにし主は　汝を待ち給う
（おりかえし）
今も汝がために　御血流して
とりなしたもう　生命を得よと

二

選ばれし者よ　つどいきたれ
幕屋そなわりて　ふるまいなれり

三

み招きうけたる　愛する友よ
霊と真もて　主を讃めたたえん

四

苦しみの時も　なやめる日にも
主は近くまして　なぐさめ給う

33 帰れわが子


1. かかかみ ええええき れれれれず わわわわの ののはし あおうみ みうひと
2. かかとこ みみりう いいぐふ はははらり たふさふ
3. ここて ががが ががが わわわむ れれれを ええええれ かかかな
4. ここえ ががが まみえた やうかい ききてま かかしる たきうち
ぞぞりも どもりし れとなめ ゆつるし びうしば そををを くべやい かしまか
にくのの らけーぎ そた主つ みはもよ ばみまの げなうに おおしく ねみとこ にののし のそこえ
ばはにち なーこの りにずい ぼこいの るむいた うすよえ もおまた ようさあ
しりくう わなゆも

一
帰れわが子　帰れわが子
神の愛は　高き山ぞ
仰げばみ空に　高く聳ゆれど
峰に登りなば　四方美わし

二
帰れわが子　帰れわが子
神の愛は　深き海ぞ
大波は猛く　岸辺をうつとも
海の底には　魚すむなり

三
帰れわが子　帰れわが子
鳥はねぐら　さして帰り
牛馬も主の　厩舎を知るなり
人の子何処に　さ迷い行く

四
御傷の御手　汝れを迎え
犢ほふり　ふるまい給う
御国の世嗣の　誓いをば示し
永遠の生命　与え給う

34 進み行け


1. すすす ゆゆゆ ささささ
2. すすち けけけ びびび
3. すいか けけり ささう
よよに ららら ととう くいつ
ばてぞ えきえ まらこ ひみみ ちにえ
まのき なみた はすわ がずる みみこ
るよて ててる
ためち りいた きしみ よがわ はえに にたき
たゆろ たじよ くのと とみざ くない
かうこ えにび たかか すちん しまび おたん おみさ
けをしゃ こうしゃ んにが し主か にるは
ヨす主 シュくー アいの ごきん のの

一
進み行け進み行け　いくさ人らよ
御霊は汝が道を　開きたまえば
雄雄しくたたかえ　助けはきたる
ヨシュアの如くに　信仰によりて

二
勇み行け勇み行け　愛する友よ
四方の隅隅にも　道を開きて
御霊の自由に　勝を得しめよ
救いの君なる　主に従いて

三
勝閧の声すなり　津津浦浦に
ひびき渡る声は　御霊の声ぞ
讃美と喜び　感謝にみちて
主の臨在は　輝きわたる

35 伝　道



一
主の御霊(みたま)来りぬ　喜び歌え
生命(いのち)の道は　ここに開きぬ
(おりかえし)
立て立て　主の子供
主に従い　勝を得よ
振れ振れ　主の御旗
再び来ます　主は近し

二
天に在(いま)せしイエスは　人の子となりて
世の罪をのぞく　羔(こ)羊となる

三
十字架の血汐は　我らを潔(きよ)め
神の子たるの　印(しるし)たまえり

四
甦(よみがえ)りたまいし　我らの神は
御国の門(もん)より　御霊(みたま)をそそぐ

五
聖徒らの群(むれ)は　ここに進み行く
選ばれし者よ　いざみな来(きた)れ

36 水と霊



一
大和(やまと)の国の　同胞(はらから)よ
血汐の泉に　ひたれかし
ヨルダン河を　渡りなば
モーセも得ざりし　カナンの地

二
乳と蜜は　流れ来て
飢えも渇きも　消え失せぬ
ヨシュアの如くに　信仰もて
ハレルヤ歌いつ　渡り行かん

三
水と霊の　福音は
永世(とこよ)に変らぬ　道なれば
聖旨(みむね)のままに　まかせつつ
ハレルヤ歌いて　登り行かん

四
昼は雲の　柱あり
夜は明るき　火の柱
御霊(みたま)の酒杯(さかずき)　ささげ持ち
シオンの大路(おおじ)を　進み行かん

37 受霊の悦び



一

静かに流るる　愛のしらべに
心は躍るよ　我が主を知りて
ハレルヤ歌わん　永遠までも
悦びの花咲けり　功なき身にも

二

降る雪さむく　木の葉は散れど
春の日さし来て　小鳥うたえば
われらもうたわん　御霊によりて
永遠に咲き匂う　花は開きたり

三

疲れし者よ　きたりいこえと
主の御声すなり　野にも山にも
ハレルヤうたわん　御救いうけて
平和と悦びは　シオンにひびけり

四

誰かこの世の　暗き渕より
救いて潔むる　人ぞやはある
ハレルヤ歌わん　十字架に死にて
永遠に甦りし　イエスをば頼りて

五

キリストイエスと　仰がれたもう
父なるみ神は　全能の神
ハレルヤ歌わん　御使と共に
限りなき愛の　聖名に栄光あり

38 友よ来れ



一

友よきたりて　拝せばや
我らの主なる　イエス君は
失せたる羊を　たずねたもう
とく帰り来て　安きを得ん

二

罪の渕より　救われて
み顔拝する　喜びは
何にかなずらえん　すべ知らず
光の国に　歌うのみ

三

重きを負える　同胞よ
軛はかろし　イエスの聖名
従いまつりて　憩えかし
御霊によりて　能力を得ん

四

病めるときには　祈りせん
寂しき日には　主と語らん
御力たよりて　うれいなし
永久に称えん　主の聖名を

39 うれしきかな



一

嬉しきかな　神の愛よ
たのしきかな　み救い
世の始めより　定めたまいし
生命の聖言　永遠に変らず

二

斥候よいま　何の時ぞ
夜更けて朝　間近し
備えせよな　終り近し
救いうけよと　御声きこゆる

三

愛の神よ　聖言きけば
憂いの雲　消え行く
備えたまいし　わが道すじは
御霊の光に　照り輝やかなん

四

永遠の国は　天くだりて
主わがうちに　住みたもう
栄光の君の　御招きうけて
歌えどつきせぬ　恵みあふる

40 誰か誰か



一

暮れ行く空の　山の彼方に
ほのかに見ゆる　ともしびよ
重荷を負いて　なやむ友に
誰かたれか　そこにささやく声

二

主の愛われを　とらえたれば
おぐらき浮世に　あかりあり
木の葉のゆらぐ　音消えて
誰かたれか　そこに聞こゆる声

三

聖徒ら歌う　かの山かげに
清けき流れの　泉あり
救いの道を　ひらきませる
わが主イエスの　御許いとも近し

四

御霊のさそう　シオンの山に
静かに流るる　霊言の
称うる声の　なつかしさよ
主在す主在す　十字架の立つを見る

五

御使われを　みちびきませば
妙なるしらべを　音に聞き
救いの幸を　あじわいぬ
主在す主在す　そこに聞こゆる声

41 洗礼の意義



一
救いの道は　いずくにあると
ニコデモは聞きぬ　我が主イエスに
学者パリサイの　眠りしころ
仰せたまいぬ　新たに生れよと

二
水と霊にて　新たに生れ
神の国の子と　せらるるなり
律法の終りと　我はなりて
心に印さん　父と子の約束

三
血汐の水に　我をほおむり
新しき国に　名をしるさる
汚れし心は　清くなりて
神の御旨を　楽しむ者たらん

四
イエスの御名の　バプテスマ
一つの御霊に　つらなるを得
栄光の御国に　入るときまで
御翼の蔭に　安けく世を過ごさん

42 バプテスマ



一
暗き闇路に　さ迷いしが
主は山坂　たずねたまい
我を見出だし　御手を伸べて
泉のもとに　みちびきませり

二
罪の暗きに　目はくもりて
汚れし泥に　疲れしとき
主は引きあげ　抱きたまいぬ
悔いくずおれて　今主に帰る

三
我が身も魂も　君にゆだね
イエスの御名の　バプテスマ
今日の佳き日に　賜りたれば
神の国に　生れいでん

四
血汐の水に　今死にて
罪の衣　捨てたれば
子たるの霊の　印たまいて
御国の籍に　いるぞ嬉しき

43 礼拝



一

天つ御国を　めざすわれ
創造主を　仰がずば
闇の世に　光なく
月も星も　なきごとし

二

霊と真の　祈りもて
あがない主を　称えばや
生命を捨てて　救いたもう
仁慈しみ深き　主なる神

三

地につむ宝は　消え失すも
御国の宝は　かぎりなし
国改たまりて　主来ませば
我が名を呼びて　迎え給う

四

我がため斯くも　愛し給う
創造主を　称えばや
主は義の衣　まとわしめ
新嫁として　迎えたもう

44 安息日



一

六日の旅路も　終えたれば
主イエスの許に　集い来て
愛の光に　照らされつ
今日の戦いに　勝利を得ん

二

十字架の御許に　休みなば
罪の縄紲も　とけさりて
御霊の自由　衷に充ち
暗黒を変えて　光あらん

三

妙なる恵みの　風うけて
聖書の奥義　悟りなば
泉は衷に　河となり
荒れたる砂地に　花の宴

四

走るべき道程　走りなば
義の冠は　そなえあり
安き憩いの　夜明けなば
光りかがやく　神の国

45 栄光主にあれ


1. ーーーえええびじ れやれは とよみい いそあけ んるらん
2. えええやええ かかこつ あよさる にけたた こひかせ まそにさ たりこは きよこら らめれれ ひあわわ をませて ーーーちたまり ーーーみきふ ののくは いスとの くエよろ すイ主しゅ たにつ王 をわいの なきたー みとう王 にはては わみにそ ーーきのやこ ーーかきく主 たみおー えのどな
3. かかルかか ささレさ みみハみ えよにき からまや さみたが みたみか ぬぐりぶ
4. えええやええ かかルかか ささレさ みみハみ とうとうにうう うくともも とのたたれみをき あか主つ にはてにに 主くれい がびふら わひあく のこにいい デテたかか ビンらつつ ダペあみみ ーーーーーー のコ

46 讃美は我らの休息



一
讃美は我らの　休息なれば
輝くみ前に　つどい来て
すべての重荷を　主にまかせ
ハレルヤ歌いて　讃美せよ

二
讃美と感謝に　みちあふるる
霊と真の　礼拝は
選びによれる　あわれみぞ
とくとく来りて　讃美せよ

三
功はなけれど　救われたり
水と霊もて　あらたに生れ
「わが子」と呼び給う　祝福の
恵みに感じて　讃美せよ

四
主は我が岩また　我がやぐらぞ
永遠変らぬ　いつくしみもて
みちびき助け　なぐさめ給う
心を尽くして　主にたよれ

五
ハレルヤハレルヤ　主はまもなく
御使したがえ　天くだり給う
いざいざはげみ　戦かわばや
悪魔の手段に　のるなかれ

47 箏よ琴よ歌え



一
箏よ琴よ歌え　イエスの御霊きたる
称えの歌声は　全地に満ちぬ

（おりかえし）
ハレルヤハレルヤ　われ贖われたり
わが為死にませる　主はわが衷にあり

二
天地こぞりて　イエスの聖名を讃めよ
死に勝ちませる主は　全能の神

三
水と霊によりて　神の国に生れ
永遠の生命を　我は受けたり

四
主によりて生れし　我が生涯は変り
御国の子供らの　歓喜に満つ

五
信仰山を移し　愛は人を活かし
希望の光もて　世を照らすべし

48 讃美せよイエスを


1. 2. 3. 4. さんようこ びろたこ よびやを せこえろ
イエたきつ スたみく つなよよ めみめせ をよをを
主めスス れほエエ イエ をえをし
い十わい のじれの ちからち のにはの きしいみ はてくは みにさち りがれに だみがこ くよけこ まりそひ たえにぞ りりどく えためら よいめれ めくよふ ほすきあ
エはヒせ リつソい ヤほプと のとにの みりさど かなまつ のてるい からおに ちれしく みわちみ らをはに もたまと にめたに こつしん こあなて えまいど たえけろ つりりく
みみみか たくたち まにまど ののののき ほたみの のみやこ おととえ

一
讃美せよイエスを　崇めまつれ主を
生命の君は　降りたまえり
エリヤの神の　御力ほめよ
御霊のほのお　ここに燃えたつ

二
喜び称え　主の聖名ほめよ
十字架に死にて　甦りたり
初穂となりて　我らを救い
御国の民と　集めたまえり

三
歌えや君を　崇めよイエスを
我らは小さく　汚れに染めど
ヒソプにまさる　血汐は清め
御霊の宮と　成したまいけり

四
心をつくし　讃美せよイエスを
生命の道は　ここにぞ開く
聖徒の集い　御国に溢れ
勝閧の声　天にとどろく

49 讃美会



一
我らは主により　選ばれし
御国の民の　つどいなり
今日も讃美の　花の宴
歌えや讃めよ　イエスの御名を

二
赤　黄　紫　白い花
色とりどりに　咲きみだれ
神の御国は　風かおる
愛の御霊に　香おりたかし

三
罪ゆるされて　清められ
御国のかどに　今立ちて
神の子供の　歌の宴
いざや集い来て　讃美せん

四
歌えどつきせぬ　主の恵み
泉は衷に　湧き流れ
イエスの御国は　かがやきぬ
ハレルヤ歌いて　讃美せん

50　御霊を崇めよ



一

贖主イエスの御名を　称えて主を崇めん
歓喜の声　うちにみちみち
疑いの雲　晴れわたりぬ

（おりかえし）
御霊の神よ　活ける生命の主よ
永久に恒久に　称えしめてよ

二

わが為主は血を流して　贖い給いたり
歌えよほめよ　我らはイエスの
功によりて　救われたり

三

御霊の主は我らの友　またわが父母よ
いかなる日にも　我は歌わん
我が衷にます　主を仰ぎて

四

水の洗い我を清め　新たに生まれたり
恵みによりて　救われしわれ
御霊によりて　歩みつづけん

51 平和



一
ハレルヤハレルヤ　わが主よわが主よ
われなんじによりて　やすきあり
世はさわぎ　波立てど平和　平和
主はわが力また　たすけなり

二
讃美せん讃美せん　ハレルヤハレルヤ
われ祈りたれば　こたえあり
正義の主　愛の神　平和　平和
主はわがかたえにて　守りたもう

三
感謝せん感謝せん　わが主よわが主よ
わが心のねがい　聞きませり
救い主　あがない主　平和　平和
主たるわが神　ほかになし

52 ハレルヤ



一
御霊のほのお　衷に燃えたち
ああ讃美の　声あふる
我が主を知りて　衷に充ちたる
御霊の　声高し
（おりかえし）
ハレルヤハレルヤ　主は甦りたり
今や恐れなし　ハレルヤ歌わん

二
君を愛する　ほのおは燃えぬ
ああ歌いて　主をあがめん
功なき身も　御手にいだかる
とこしえに　主をほめん

三
罪の渕より　救い出だされ
ああ感謝は　歌となる
思い出だすも　恥ずかしきかな
われ主を　知らざりき

四
浮世のなげき　今は消えゆき
ああ嬉しき　かぎりなり
歌えよイエスを　称えよイエスを
聖徒らと　ともども

五
友よ来りて　讃美せよイエスを
ああ我らは　主にまみえん
王なる祭司　主につける民
御国の　世嗣なり

53　聖徒と共に主を讃め称えよ



一

主をほめ称えよ　われらの神を
主を称え奉るは　たのしき事なり
エルサレムを築き　放浪者を集め
心砕く者を医し　その傷を包み給う

（おりかえし）
ハレルヤハレルヤ　贖い主よ
キリストイエスよ　御栄光あれや

二

主イエスに感謝せよ　琴の音に合せ
雲をもて天おおい　雨を降らせ給う
山に草生えしめて　泣く小鴉に与え
逆きし族にも糧を　与え給う主に在ば

三

シオンの娘来り　主をほめ称えよ
選ばれし者来り　御名に感謝せよ
陰府の門開けて　贖いうけし民ら
血汐の泉をば潜り　新しき衣着けよ

四

主の大庭に住める　民ら歌うたえ
乳香と没薬を　み前にささげよ
その憐みはつきず　愛は炎のごとし
恵と真にて満る　御懐にいこわまし

54 讃め歌え



一

声高らかに　讃め歌え
尊き御名に　栄光あれ
四方の隅まで　響けよと
主の指揮し給う　国の民

（おりかえし）
讃美せよイエスを　我が神イエスを
愛のほのおは　燃えにけり

二

十字架の許に　安息う時
血汐に我は　消えうせて
輝く愛の　御手を見る
涙にぬれし　朝もあり

三

淋しき舟の　一人旅
波たけり来て　襲えども
罪荷を捨てて　水くぐり
御霊の島に　我は来ぬ

四

真理の海は　いと深く
ただよう暇に　ふかの中
ニネベの町に　主を知りて
深き御愛に　リバイバル

55 昇　天



一

うつし世を離れて　御国の楽しみ
受くる身の幸い　例うものはなし
輝く御姿　愛のともしび
我は称えなん　あした目覚むる迄

二

選ばれし民らの　のがればなる主よ
近づき給えかし　臨在のうちに
栄光かがやく　ほのおの雲
たぐいなき人よ　そは我が主なり

三

ハレルヤ歌いつ　天のぼる日まで
御栄光仰ぎて　歌いつつ行かなん
かぎりなき愛よ　御霊の神よ
御使の歌も　さやかにきこゆる

56 召されし友よさらば



一

眠れいとしの　我が子よ
星はまばたき　み空を守り
樹樹は荒き風　防ぎ戦う

(おりかえし)
さらば友よ　さらば友よ
御使歌う　天のとびら開く

二

眠れいとしの　我が子よ
月はこうこう　汝を見守り
野辺に花開き　枕辺かざる

三

眠れいとしの　我が子よ
石の枕の　夢やぶれなば
主を仰ぎ見て　共に語らわん

四

眠れいとしの　我が子よ
再臨来らば　雲に乗りてよ
顔と顔合わせ　主にはべりなん

57 御国のすまい



一

素晴らしき空　清きその声
君を慕いて　今日も暮れ行く
（おりかえし）
あな尊としや　君がみ救い
血汐によれる　安き憩い

二

御国のすがた　わが衷にあり
清き御霊の　声のひびくは

三

御国のすまい　妙にうるわし
愛と平和は　花と咲き香う

四

救いの道は　いと遠からず
水と霊もて　新たに生まる

58 美しき国



一

美しき国に　住みて我ら
万代に主をば　称えまつらん
（おりかえし）
喜び称えん　神の愛
歌えや主の　贖いを

二

輝く御国に　行きてわれら
王なる主イエスに　まみえ奉らん

三

かぐわしき国に　進み行きて
永遠にイエスの　聖名を称えん

四

泉湧く国に　歌うわれら
岩なる主イエスを　讃め称えなん

59 天国の山山



一

天国の山山緑深く　活ける河流る
聖徒も御使らも　イエスの聖名を称え
ハレルヤの歌声は　天地に満つ
シオンよイスラエルの民らの　輝ける国よ

二

幸いは川の如く流れ　泉に水みつ
神の羔羊イエスは　高き御位にまし
とこしえの幸いは　花とかおる
シオンよ贖われし民らの　喜びの国よ

三

誓いの虹はみ空にかかり　憂いの雲なし
歎き悲しみもなく　別れも死もまたなし
暑さも寒さもなく　春の如し
シオンよイエスの新婦らの　愛の輝きよ

四

愛の花ふくよかに香りて　歌声にぎわし
すべての罪けがれも　全く水と流れて
救いの酒杯をば　くみておどる
シオンよ新郎の饗宴に　歌い楽しまなん

60 愛



一

愛　愛　愛　愛
愛は優しく　愛は聖く
愛は楽しく　愛は美わし
愛こそはげに　賜物なる

二

愛　愛　愛　愛
愛は尊く　愛は奇すし
愛はとこよの　生命なれや
愛こそはげに　神の国

三

愛　愛　愛　愛
愛に悩みて　十字架に架り
死をもいとわで　我を救えり
愛こそはげに　血汐の水

四

愛　愛　愛　愛
罪赦されて　み恵み受けし
子たる霊の　恋いしふるさと
父母います　なつかし国

61 身代り洗礼



一

長き眠りに　つける祖先の
霊は今なお　歎き悲しめり
春すぎて夏来り　秋ゆきて冬来る
されど陰府は　永代の冬の真夜中

二

暗闇のおぐらき　黄泉の
泉あけくれ　涙の流れ
死の川わたり　かの日の苦痛
今も彼が　うらみの港なる

三

出で行く舟は　底知れず
深き深みに　沈みゆきぬ
さわれ救い　今なお閉ざされ
霊魂不滅に　なやみぬきけり

四

悪霊うずと　まき来たり
狂わんばかり　救い求む
かすかに聞こゆる　水のしぶき
天より歌う　贖いの奇しき御業

五

やがてつきたる　陰府の門
イエスの御名に　開かれたり
世にある末の　身代り洗礼
ああ何たる　大いなる恩寵かな

六

ああ喜びの　声ひびき
我らの祖先　救われたり
恵みの光　かがやきわたり
御使の歌　天地にとどろく

62 祖先祭



一

ハレルヤ歌える　聖き城にて
御使いと共に　集うたのしさ
天のエルサレムは　ここに天降り
我らの幕屋に　主イエス迎えぬ

二

御声聞こゆなり　この日の祭壇に
昇り給いにし　祖先もともに
見よわれ万物を　新たにすべしと
羔羊主イエスは　我らに宣給う

三

御国の山山　死の蔭もなく
羔羊主イエスは　新郎たり
新婦の備え　なさせたまいにし
栄光の君の　みそば慕わし

四

恋しき主イエスと　共に住み給う
我らが祖先の　尊しさよ
やがて主来まさば　御前に集いて
御国のふるまい　共に味わわん

五

暁の星の　かがやく朝
ベツレヘムの星の　行方たずね
み空かけめぐり　御救い伝えん
永世の生命に　目ざむる日まで

63 平　安



一

永遠に変らぬ　愛のイエスよ
憂いも悩みも　君にまかせまつれば
賤しき身をさえ　救わせ給えり

(おりかえし)
ハレルヤ我が主の　統べ給う御国よ
我は慕うなり　わが主の住居を

二

いずくにありても　御旨のまま
従い仕えて　君にすがりまつれば
御霊の御声を　さやかに聞くをえん

三

いと高きところに　住もう我は
御使仕えて　悩み更に来らじ
生くるも死ぬるも　御栄光の故に

64 臨在のもとに



一

臨在の許に　我等は祈る
臨在われを　強くし給う
臨在われを　息わせ給う

(おりかえし)
臨在あれや　恵の御座に
仲保たもう　血汐は流る

二

臨在の許に　われらは祈る
臨在われを　強くしたもう
主の仁慈み　今日も変らず

三

臨在の許に　われらは祈る
祈る祈りは　み前にとどき
聖め別ちて　答えたまえり

四

重荷をとりて　息わせたもう
あいの光は　ここに照り出ず
げに臨在は　わが救いなり

65 御霊のある所



一

ハレルヤ我らの　王なるイエスの
御許にいこうは　たのしきかな
雲雀はさえずり　稲穂はみのりて
おみなもおのこも　歌うたえり

（おりかえし）
友よ来れかし　御霊のある所
そこに安息わまし　神の御懐

二

永遠の御国　エデンの園よ
主の導き給う　奇しき国よ
新しき歌は　御堂にあふれて
聖書の御言葉　日ごとみのる

三

浮世のたのしみ　いとおおけれど
一日の夢とぞ　消えゆくなり
御国に宝を　つむよろこびこそ
永遠のやすみなれ　喜びなれ

四

右にゆくときは　我偕にあらん
左にゆくとも　我偕ならん
とこしなえまでも　我は汝をば
恋い慕うなりと　主のたまえり

66 主のふるまい



一 余りにも豊なる み恵みなれば
人の世は之を知らず 又見るを得じ
心をば開きて 悟を得よと
大いなるふるまい 開きたまえり

二 豊なる恵もて 開きたまえる
このふるまいは天と 地をつなぐ所
幸を此世にも あたえばやと
聖なる宮に 臨在したもう

三 水と霊の道を 進み来たれば
迷うことなくして 主にまみえたり
栄光と御威光は 比ぶものなし
愛と平和は 心にあふる

四 久しくかくせる 葡萄酒の宴
味わいてわが心 喜悦に泣く
呟はかわりて 恵みの花咲き
罪人義の果を 多く結べり

五 ハレルヤの歌声 高くひびきて
いと高き所に 主を仰ぎ見る
シオンの幸 露とくだりて
アロンの鬚より もすそにながる

67 恵みの泉



一 恵みの泉湧き溢れ 我常に満ちたり
荒野の旅路も つかれおぼえじ
ハレルヤハレルヤ われらの杖よ
患難の丘も ともなりたまえ

二 歓喜の国近づけば 我常に歌わなん
望みの誓いは 果さるるなり
ハレルヤハレルヤ 栄光の君よ
愛の御顔 仰がせ給え

三 放浪の旅終りなば 天なる御国にて
御使とともに ほめ歌うたわん
ハレルヤハレルヤ 主なるイエスよ
真白き御衣に 触れさせたまえ

四 斫出されし磐思い 我常に感謝せん
掘出されしを 日日おぼえつつ
ハレルヤハレルヤ 御霊の神よ
真理の道をば 歩ませたまえ

68 懐しイエス君



一
なつかしイエスきみ　今いずこ
月をながめて　むかしおもい
つばきはな咲く　山かげに
一人泣きつつ　君を待ちぬ

二
我が主イエス早も　み手に抱き
汝れを捨ておきて　何処に行かん
黄金の御殿も　よろこばじ
そともに立ちて　汝れを待ちぬ

三
主よとく来りて　いらせたまえ
汚れし心も　清くせられん
痛める心も　医やされて
恵みと憐れみ　常にそいなん

四
今よりのちわれ　御手にすがり
おぐらき谷間も　安く渡らん
御門に行くまで　したがいて
御霊の宮居に　仕えまつらん

69 かがやく朝



一
かがやく朝　主のもとに
我は目覚めて　歌うらん
贖い主よ　愛の主よ
げにも奇しき　愛の神

二
千代万代に　たたえばや
水と霊もて　救われぬ
この身の幸を　何に例えん
げにも妙なる　愛の神

三
野山に花は　咲き香おり
小川に魚は　およげども
我は主イエスに　抱かれぬ
げにもゆかしき　愛の神

四
つくし摘みつつ　歌うれば
われも一つの　草の花
御国のために　つみとらる
げにもゆたけき　愛の神

五
春は桜の　花ごろも
秋は紅葉の　色にしき
我は御前に　ありて歌う
げにも楽しき　神の国

70 勝利の道



70

一
永世に輝く 栄光の国を
我らは望みて 進み行く
イエスの救い 喜びのおとずれ
天より降りて 贖いなりぬ
千年王国 早くもきたる
歌え新婦ら 新郎きたる

二
道は一筋の 生命の道ぞ
夜なく昼なき 永世の国
神の栄光 朝日と輝きて
雲霧晴れ行き 心は躍る
歌い楽しみ ハレルヤ叫ぶ
御使こぞりて 我らを称う

三
さすらいの旅は 終りを告げぬ
主は御手をのべて 進ませ給う
イエスの福音 水のバプテスマは
我らを清めて 生命を与う
受けよ生命の もとなるイエスを
ここに天降る イエスの御霊を

71

一
エデンの園は 我がふるさと
アダムとエバは 我らが祖先
うるわしき木の実に 心の眼くらみ
神を忘れて サタナの手に入る

二
エデンを去りし アダム、エバに
思いは深し 贖いの道
アベルの羔羊 祝させたまい
犠牲なる主の しるしとなし給う

三
幾千年の 真実を見よ
ロトの救いと ノアの方舟
イスラエル人は 奇跡のかずかず
あかがねの蛇 見上げて癒さる

四
イザヤの予言 遂になりて
神人となり 犠牲となる
十字架の血潮は 我らを贖い
水と霊により 主に帰らしむ

五
メルキゼデクの 御位高く
甦りの主 朝日の如し
世界の人人 御霊を受けて
ひとつ心もて 主を讃め称う

(後唱)
ああ神の偉大なる 無限の愛よ
いざ帰らん 我らのふるさとへ
いざ帰らん 我らのふるさとへ

71 エデンの園より



72 あわれみ



一
うるわしき朝も 清き憩いの夜も
父なる御神に あわれみうく
人の子となりて 天よりくだりし
神のひとり子を 信じて楽し
(おりかえし)
称えよほめ歌えよ ハレルヤ主イエス
新しき国に 王となりたもう

二
春匂う花も 川に泳ぐ魚も
父なる御神に あわれみうく
疲れし心は いやされて君の
御言葉を信ずる 者とせらる

三
大いなる御救い わが内になりたれば
父なる御神は 祝したもう
アブラハムの裔 全地にみちみちて
とこしえの幸は 天降りぬ

73 一粒の麦



一

わがたましいよ　主をほめまつれ
わが内なる人よ　その御名を称えよ
主はその民を憐み　その牧の羊を顧み給う
草は枯れ花はしぼむ　人の子はちりに帰る
されどあわれみに　富みたもう主は
人の生命を　よみがえらせたもう

二

わがたましいよ　うなだるなかれ
わが内なる人よ　慰めをうけよな
我を信ぜよ天には　住居多しとのたまえり
茨の冠に　釘付けられし十字架
イエスはバラバを　許して今
人の生命を　よみがえらせたもう

三

よみがえりたまいし　初穂なる主よ
我らの罪とが　背負いたまいし主よ
一粒の麦も死なずば　一粒にてありなん
我に来る者死なず　えいえんに生きん
我はひとたび　葬られたれど
墓を破りて　陰府より昇りぬ

四

わが愛する者よ　わが愛を衣よ
われすみやかに行かん　終り近づきたり
終りのラッパなり渡れば　雲に乗り稲妻の如来る
わが民を集めんために　再び来る
見よやその日の　光景をば
またたくまに　たずさえあげらるべし

74 歌え若人


1. うたえもたたよ　かくわかつとーもともにくぬす
2. うたえここもたかくかがつどしろはしらひまとゆ
3. うたえここもたかくみなかいもとまあいにらまろま
てぶせ
主をじよほかりむおうるいまこたれえましごいこえにらはしはの主いべはとにりみまえかやがきもみかよたにりをもたをあひかみ主をさどべうてあぶすくくてやじりのひあまらがかいいきめこゆしんじえりまとはみなたんとばにこ
主をまるらひせびるまとゆちのみかろまにこにこ主
んわかわ
ららルれれレ
たたたうひうもヤ

一

歌え声も高く　若人どもよ
主を讃むる声は　野辺にも山にも響く
ひばりの声とんびの舞　輝く朝の光うけて
我らも歌わん　世に勝ちませる主を

二

歌え声も高く　あがなわれし友よ
十字架負い給いにし　主は甦りたまいぬ
谷間の百合花を開き　いちじく葡萄は実を結ぶ
我らもひらかん　心のとびらをば

三

歌え声も高く　御使もろともに
主より生れし子らは　至高き神を愛す
聖言信じ御霊崇め　祈りて凡てを主に任せ
ハレルヤ歌わん　主にまみゆる日まで

75 霊の戦い



一

戦いはげしく　終り近づけど
主に在りて生くる　我はいと安し
戦わん戦わん　救いのために
天の軍勢万軍の主　我らの助け

二

戦わん戦わん　サタナ来たれども
エリシャの神なる　イエスは先立ち
ハレルヤ歌いて　進み行けば
天の軍勢万軍の主　我らを助く

三

戦い疲れて　わが手なえたれど
昼も夜も主は　まどろみ給わじ
歌わなん歌わなん　救いの幸を
天の軍勢万軍の主　我らを助く

四

勝関の声は　野辺にも山にも
はるかに響きて　栄光かがやく
証しの幕屋は　喜び満ちて
天の軍勢万軍の主　ハレルヤ歌う

76 イスラエルの神



一

イスラエルを 導きませる主よ
わが行く道を 示したまえ
メラの水は 甘くなり
飢えにしときは マナが降る
手をあげよ モーセのごと
今主は直ちに 答えたもう

二

イスラエルに 聞き給いにし主よ
我が祈りにも 答えたまえ
つぶやきし空の かなたより
うずらの群が 舞いきたる
主を仰ぎ 祈れ友よ
祈ればただちに 答えあり

三

贖い主 わが主イエス君は
わがうちに今 住みたまえり
御国に住居を 与えんため
陰府よりのぼり たまいたり
ハレルヤ 歌え友よ
歌えば御声 ちかづくらし

四

喜びもて ほめ称えん主を
死の縄われを まとうとき
力はあふれて 讃美せり
くちびるのみは 歌となる
主を愛し 祈る友に
近づきたもう 御霊の神

77 祈りの歌



一
患難(なやみ)の日には　我を呼べ
われ汝に　答えんと
主の御言葉に　したがいて
祈る我らに　聞き給う

(おりかえし)
祈りを　聞き給う主よ
諸人(もろびと)こぞりて　汝に来らん

二
主は汝が心の　ねがいをば
与え給うと　約したり
イエスの御名(みな)に　頼りなば
主は聞き給うと　宣給(のたま)えり

三
祈りは常に　きかるなり
信仰の祈りに　答えあり
亡びの渕(ふち)より　救いたもう
愛の深さには　限りなし

四
常に喜びて　祈りせん
信仰の道を　歩み行く
主の子供らに　勝利あり
霊と真(まこと)もて　先ず祈らん

78 雨乞いの歌



一
あめふれよ　あめふれよ
野も山も川も　かれはてぬ
牛も豚も　ひつじも馬も
渇いてウーウー　泣いている

(おりかえし)
ふれよふれよ　エリヤの祈り
讃美とともに　天の窓ひらく

二
あめふれよ　あめふれよ
人人かわきて　水もとむ
天をあおぎ　手ほどの雲に
のぞみをいだき　雨祈る

三
あめふれよ　あめふれよ
かわきし心に　あめふれよ
罪もとがも　洗いながして
みどりしたたる　あめふれよ

四
あめふりぬ　あめふりぬ
野も山も川も　満あふる
聖霊降臨　人にそそげば
かわきし心は　うるおいぬ

79 汝の荷を主にゆだねよ



一 汝の荷を 主にゆだねよ
主はいと近く ましませば
うれいの日も なやみの夜も
いたむことは あらじな
(おりかえし)
背に負い 胸にいだき
くちづけして ささやく
主の愛 われを
たくましくする

二 汝の荷を 主にゆだねよ
さらばこれをば 成し遂げん
真昼のごと 御業をなし
み能力をば 示したもう

三 ほのおをもて 我を燃やし
御剣をもて 刺しませど
医しをなし つつみたもう
いつくしみ深き 主なる

四 主は生命を 与えまして
一人一人を 呼びたもう
月も星も 山も川も
愛によりて かがやく

80 感謝祭



一 十字架の血汐 我をきよめて
御国のさちを たまいけり
(おりかえし)
称えよほめよ 全能の神を
ハレルヤ歌いて 主に感謝せん

二 サマリヤの道 主はくだり給う
きずつきし者 癒されぬ

三 たかぶりし者 ザアカイを見よ
主は友となり 食し給う

四 救われし者 信じて進まん
道せまくとも 開き給う

五 イエスの聖名の わが感謝祭
御霊はあふれ ヨシュアたり

81 結婚式



一

喜びの音ずれは天よりくだる
神の合せ給える友の　結ぶ契りの莚
愛の花ここに開き　恵みの露おく
睦みしたしむ　かぐわしき花

二

美麗しき花咲けり　ゆたかにみのる
御栄光を顕す愛の　清き祝福の花
千代万代に咲き匂う　新しの門出
御使ともに　いざや祝わん

三

アダムエバを結べる　主なる御神は
カナの婚宴祝し給えり　聖旨今も変らじ
奇跡も不思議もとものう　善き主の愛の国
つぎて安けく　世に勝ち進まん

四

花婿なる主イエスは　我らの王なり
花嫁らは備えをなしつ　再臨の主を待ちわぶる
天にある饗宴のごと　われらも祝わん
みさかえとわに　ハレルヤアーメン

82 祝福祭



一
イサク種を蒔けば みのること百倍
イサク種を蒔けば みのること百倍

二
ヤコブ祝福受け 羊を飼いたれば
肥え太りて群の おおいなる産業

三
ヨセフ売られたれど パロに見出されて
エジプト王国の 大宰相たり

四
羊飼のダビデ 主をほめいたりしが
ゴリアテを撃ちとり ついには王となる

五
ソロモン智恵を求め 世をすべ治めたり
その名栄光ともに 王宮にかがやく

六
我ら祝せられて アブラハムの裔と
契約のしるしを 身におびて子となる
(後唱) その義を求めて
神の国と 甦りしイエスと 喜びを共にせん

83 聖なる族


1. らをいトふしなス めらがりあああキ
2. ばしのイふずたエれめめス
3. きな十よはみじにみのかかーえーーをうにち
4. むあしまんあえくせかまらかしせいいめりはぎ
ろんあのしにをじまんまつはせたひよごみこきをたみ
ーーがーらのみ王ばパえーれててりふもりた
ゆい主王きつはーふつよのかこきょたみたはくばもいしとらかだこか
にをののもたいていいらまべんしてくもれしそらまやくかういやちなもまうとめるたのよあにてなみもべはつとすーをしきるのいとりわみのちじのくぐいをはくあよしみしてにずきいてびわみにみごさりのすいにすたきときつびうといたこうたたいとしふえしてさんりもでかなどまやらこひがかのうかや主もうか
雨降らば降れ 木は実をむすぶ
雪降らば降れ 世は真白き銀世界
新たに生れし 新婦なる教会は
血の泉くぐりにし 尊き主につく族なり

二
嵐をしずめ 波の上あゆみ
五つのパンもて 五千人をあかしめ
病を癒して 罪ある者をただしく
導きし愛の御手 慕つ進むは主の子供

三
あがないのため 十字架に死せる
主は甦りて 御霊を与えませり
すべての約束 共に給いし御言葉
味わいて世を過さん 再び来り給う日迄

四
キリストイエス 世に勝ちまして
王の王たり 羔羊の御座位は
権威も能力も 凡のとうとき宝も
主の御手に支配さる 栄光永遠に輝かん

84 年の始めに



一
喜びをもて　迎えよこの年
み恵み尽きぬ　ヨベルの年
栄光と能力の　顕わるるを見る
神の子供の　待ちにける年
讃美と感謝　歓喜あふる

二
喜びをもて　迎えよこの年
善き業はげみ　仕えまつらん
救いの君なる　イエス働きます
いざや信じて　聖言伝えん
世にもまれなる　嘉き音信を

三
まことや雀　やどりあらん
つばめは家に　帰り来らん
幸ある縁の　結ばるる年ぞ
恐れは去りて　平和は来る
ハレルヤ高く歌えよ　讃めよ

85 新年礼拝



一
年の始めを　寿ぎて
我らともども　祝わなん
主もまた共に　あれまして
幸い給う　この御殿

二
義の太陽の　初日の出
迎うこの日の　幸いは
我らが上に　照り出でて
栄光ときわに　輝かん

三
イエスの御名を　ほめ称う
年の始めの　礼拝は
生命を与うる　祝福の
恵みに報ゆる　感謝祭

四
喜ばしくも　迎えたる
ヨベルの年の　聖なる日
思いは遠き　過越の
祝いとともに　記念せん

五
今は恵みの　時なれば
わが主イエスは　先立ちて
御民のために　進軍の
角笛吹きて　進み給う

86 新年聖会



一
新しき年の　始めかな
古きは夢と　消えゆきて
講壇の前の　神の国
新しき油　そそがれたり

二
恵みの露に　うるおいて
一輪のばらの　ふくよかさ
約束の子の　幸いは
世にもまれなる　かおりあり

三
臨在のもとに　祈りつつ
あけゆく霊の　ゆめの国
講壇の前に　あらわれし
慈愛の神の　みこえきく

四
夜空にひかる　星かげに
まばゆき神の　あいを知る
記念のうたに　あもり来る
祝福の御霊　いわわばや

五
新しきうたの　あふれ来る
御国の富の　豊さよ
主を仰ぎつつ　のぼりゆく
聖徒らの群に　栄光あれ

87 愛の家庭



一
水と霊もて生れ　むすばれし者は
とこしえ変らぬ　愛の友なり
主は常に偕にまし　導きたまわん
御国の住居を　建つるために

二
神の子の建つる家　奇しくもゆかし
御使こぞりて　団居を守る
優しき愛の声は　四方をうるおし
御国のすがたは　さやかならん

三
称えよ朝も　夕日さすおりも
御国の磐なる　イエスを仰ぎて
笑いと喜びは　常にゆきかい
うるわしき花と　咲きかおらん

88 親愛



一

たがいにしたしみ　愛もて仕えん
とこよの磐なる　主の友なれば
やさしき主の御声　常に聞きおらば
怒りはとけゆき　讃美と変らん

二

茨の冠を　いただきまして
罪人の首と　あざ笑われし
主を思うとき　我は忍ぶなり
罪人たりしとき　救われたれば

三

常に喜びもて　友と和がん
わが衷にます主は　全て知り給う
ハレルヤ歌いて　たがいに祈れば
朝つゆの光も　珠玉と輝やかん

四

心に主を崇め　道にしたがい
生命の言葉を　常にまなびて
様様なる教え　また清からざるを
遠く離れ行きて　主を慕い行かん

五

御国のたのしみは　一日なりとも
この世の楽しみの　千日にまさる
悪の幕屋より　はなれ来たりて
主の仁慈の　御手にいだかれん

89 聖徒の交り



一
古きは去りて 新しくなり
聖めわかたれ 神の子たり
全地よほめよ 御子イエスを
我らは君の うず宝

二
山にも野にも 花は開きぬ
レバノンの香柏 かおり高し
御霊の声に 小鳥さえ
歌うこの世は 恵みの時ぞ

三
イエスの御名こそ 世の望みな
暗きは去りて 光さしぬ
歌えや君の みさとしを
ならえや君の 聖き御霊に

四
求めよ霊の 祈りのときを
主は待ち給えり とく来れと
互に親しむ 交わりに
御国の幸は 流れ来る

五
老いも若きも 集りきたり
主の御名ほむる 時はたのし
うたえや君の 御恵みを
伝えや愛の 御救いを

90 御霊は一つ



一
主は宣給いぬ 「我は葡萄の樹
汝らその枝 我に連なれ」
(おりかえし)
御霊は一つ 肢は多し
創造主なる 主は首なり

二
主は宣給いぬ「我をはなれて
何事なすとも 獲るを得じ」

三
主は宣給いぬ「我に来よ」と
「我は汝が為に 生命を捨てぬ」

四
主は宣給いぬ 「我が声聞け」と
羊は主の声 聞きわくるなり

91 信仰



一
荒波ふみて 歩みしペテロ
波浪をおそれて 溺れかかりぬ
（おりかえし）
ハレルヤハレルヤ 主は近づき給い
御手をのばして 助けたもう

二
鞭にて打たれ 殉教なせる
ステパノを見よ 主にまみえたり

三
ダビデは小さき 羊もりなり
ゴリアテ撃ちて 国を救えり

四
シャデラクメシャク アベデネゴらは
ほのおの中も 主と歩みけり

五
獅子の穴にて 祈るダニエル
獅子もろともに 主を崇めいたり

六
我らは小さく かよわくあれど
御国の柱 また石垣ぞ

92 主よ示し給え



一
なぐさめ主なる イエスきみよ
今も昔も かわりなく
マリヤマルタに たまいける
み教え我にも 聞かしめよ

二
死より甦り たまいにし
わが主よここに あれまして
ラザロを活かし たまいける
奇しき御業を 見せたまえ

三
ガリラヤ海辺に 網打てる
弟子らの漁り あわれみて
沖に出で打ちなば よからんとの
さときしめしを 与えませ

四
労れし者よ いざ来れ
活ける生命の 真清水を
サマリヤ女に あかしける
主イエスはここに 語り給う

五
御霊によりて 我は知る
活ける真の 助け主
証によりて かたくせん
聖書の法に まがいなし

93 霊の交り



一
十字架の御許に　重荷おろし
過ぎし日の奇しき　みわざ思えば
安き憩いに　心はかろく
暗黒は消えゆき　信仰に満つ

二
此の世の旅路を　歩むおりしも
主イエスの御許に　集い祈らば
清き活ける水　我をうるおし
渇きは変りて　歌は流る

三
ことごときかるなり　篤き祈りは
聖名によりて祈らん　御栄光の為に
造られしものみな　主の名によりて
御国の子らの為に　益となるなり

四
「友よ」と呼び給う　主のみもとべは
義と和と聖霊に　充つる国なる
御霊のほのおもて　切に祈らば
御国に充ち満てる　賜物をぞ得ん

94 愛の泉



一
泉あるところ　そこはわが家
神の御姿の　うつる川
嬉しき笑顔に　愛の御声
そこにぞ憩わん　主の御許なれば

二
高き御位　打ち捨てて
人の子となりし　我が主イエスは
人の子を愛し　なぐさめたもう
永遠の父と　したい仰ぐなり

三
うから同胞　捨て去るとき
愛の奥義をば　示したもう
我が前にはただ　主のみいます
釘附けられし主は　わが生命なれや

四
赦しの泉　いと深けれ
汲みても汲みても　尽きせぬ水
うるおい来りぬ　渇きしわれ
絶えざれやイエスの　愛の泉よ

95 求めよ尋ねよ



一
求めよさらば　与えらるべし
尋ねよさらば　あいまつらん
心に秘めたる　わがねがいをも
全てききたもう　御霊の神は

二
悪しきものなる　世の人人も
その子のパンを　求めんに
石を与えし　ことありや
己が持ち物を　売りて与うるに

三
信じて祈り　まことつくさば
天の宝も　住居をも
惜しみたまわず　与えたもうなり
永遠かわらぬ　イエスの御霊は

四
十字架を負いて　死にたまいける
貴き愛の　冠もて
溢るる恵みに　満ち足らわしむ
真理の御霊を　称えて従わん

96 地よ恐るる勿れ



一
地よ恐るるなかれ　喜びたのしめ主は
新しき事をなし給う　新しき事をなし給う
みさかえのために　地の牧草はもえいでて
みどりしげく　木はやがて実をむすぶ

二
主につける民らよ　喜びたのしめ主は
新しき事をなし給う　新しき事をなし給う
みさかえのために　野の荒きけものはおらず
安息きたり　主は統べ治めたもう

三
あがなわれし者よ　喜びたのしめ主は
新しき事をなし給う　新しき事をなし給う
みさかえのために　御名のゆえもて低きもの
高くせられ　罪人救いうく

四
主の御霊くだりぬ　喜びたのしめ主は
新しき事をなし給う　新しき事をなし給う
みさかえのために　のろわれし者祝せられ
汚れし者聖められ　さかえうく

五
御救いうけしもの　喜びたのしめ主は
新しき事をなし給う　新しき事をなし給う
みさかえのために　天よ歌え地よ喜びの
声をはなて　主はとこしえの王
ハレルヤアーメン

97 浜辺に立ちて



一

浜辺に立ちて　御国思えば
夕日に映ゆる　島影に
遙かより群れ来ぬ　浜千鳥
御国の福音　伝うらし

二

老松しげる　磯の端に
夜な夜な開く　月見草
黄金の花びらに　風吹けば
木の間もれ来る　愛の月

三

妙なる愛に　いだかれて
御救いの光　今ぞ知る
歌えどつきせぬ　ご恩寵
朝な夕なに　主をあがむ

四

アブラハム老いて　年みてど
浜辺の砂に　なぞらえて
主はのたまいけり　裔裔は
砂の如くに　ふえ増さん

五

仰げば明星　かがやきて
再臨の主をば　待ち望む
我らは特選の　民なれば
かがやく御国の　星たらん

六

イエスの御名に　生れ来し
我らは神の　国の子供
讃美の羽衣　身にまとい
歌いつ昇らん　虹の橋

98 悲しみの日のために



一

夜はよもすがら　泣き悲しむも
朝には　喜び歌わん
朝には　喜び歌わん
夜はよもすがら　泣き悲しむも
朝には　喜び歌わん

二

十字架を負いて　カルバリの丘
登る主の御心　知りて
共に泣き　共に祈る
我が主にまみえ　よみがえる朝
ああここに　再び会わなん

三

血潮を流し　罪を贖う
主イエスの　御すくい受けて
よみがえりの　朝を待つ
やがては主の　御前にありて
喜びの　歌にあふれん

99 病床の師を思う



一

愛なき世は　星なき夜
海原遠く　ゆれる小舟
漂う波に　もまれゆく
心のやすきを　いずくにえん

二

愛なき世は　嵐の夜
小鳥はふるえ　稍に鳴く
救うものなく　歌声もなし
たえなる月の夜　いずくにえん

三

お暗き夜の　あけにし朝
愛の太陽の　照りいでなば
稍は光り　小鳥は歌とう
雛は育ちて　にぎわいなん

四

愛なる主の　御腕のうち
やすけく祈る　御霊の声
讃美となりて　世を照らす
歌えば罪の世　消えにけり

100 神の助け



一
大波われを 襲うとも
我には神の 助けあり
小舟はいかに ゆれるとも
主はわが舟の 長なれば

二
主はの給いぬ「安かれ」と
信仰うすき わが友よ
主の一言に 静まりぬ
波風ともに 跡もなし

三
我には他に 頼りなく
我には他に 救いなし
我が罪いかに 深くとも
主はわが衷に 住み給う

四
黒雲空を 蓋うとき
恐怖は我を 囲むとも
希望は失せじ 主在せば
目指す港も 近づきぬ

101 救いの幸


1. 2. 3. 4. のすいの きつやみ
のかはお しちれの やみわほ
みおらま をみルら
ももももし まひにま やくひい のふのに もうもじ
りしいも みはしず くすまわ のやえか
おられと こあう主 なれこけ みわとや
るももも なわきに てよとか はむのな るとなも のもわか みのたな みいうの にてにら いりえか あよまち ののののの
なんも
ぬるにば きたもえ つきとお みいいお
しにかを はとぞこ
のいつれ たあみわ たたちろ ううさよ
ぬるやる れるにふ ががかあ なないび
みちみみ かしくた にのレて くこハす てはうも みちとひ ぞさうる ののヤる

一
北の果なる 氷の山も
椰子の実みのる 南の国も
御神の愛に 楽しみ尽きぬ
国をのぞみて 歌は流れぬ

二
月澄む夜半も 嵐吹く日も
御誓いのもと 我は安ろう
血汐によりて 愛に生きたる
この身の幸は 歌と流るる

三
病いの時も 憂いの日にも
我は歌わなん 永遠までも
御座の前に 御使ともに
ハレルヤ歌う 幸ぞ如何や

四
水の中にも 主ともに在し
火焔の中も 焼けず乾かじ
御霊の能力 我をおおえば
捨てらるる日も 喜び溢る

102 神は我らの避所



一

神は我らの　さけどころ
また磐なる　救い主
力を尽くし　たよりなば
必ず愛もて　助け給う

二

よしや世の人　知らずとも
我ら信じて　救われぬ
一つの救い　主にあれば
従い仕えて　進み行かん

三

黄金銀金　なにかあらん
尊き主イエスの　血汐にて
洗われ活かされ　贖われ
讃美にみたさる　幸あれば

四

昼はとび来る　火の矢あり
夜は激しき　えやみあり
されども恐るる　ことあらじ
御使つかえて　守りたもう

五

ああ愛なるかな　主なる神
霊と真もて　拝せばや
永き生命もて　ほめ称えん
みつばさの下に　平安あり

103 神はわが力



一

神はわが力なり　我は主のものなれば
戦いはげしくも　おそれあらじ
弱くとも恐れじな　主我と偕にませば
御使こぞりて　まもりたもう

二

神はわがやぐらなり　我聖き宮なれば
浮世の波よするも　動かされじ
十字架に死に給えど　甦り給いにし
勝利の君イエスは　支えたもう

三

神の御翼のした　昼も夜も安きあり
栄光の御国の　心地ぞすれ
聖言の石ずえは　永遠に変らじな
磐なる主の御霊　衷にませば

104 永遠の父よ



一

とこしえの父よ　我が慕うイエスよ
主の甦りに　つづかしめたまえ
今日より我が身も　主のものなり
生くるもキリスト　死ぬるも主よと

二

よろずの人人　おじまどうときも
主の御腕により　我はいとやすし
心の平和を　うぼうものなし
尽きせぬ恵みを　称えまつらなん

三

けぶれる麻をも　消したまわぬ主よ
なえたる膝をば　立たしめたまえ
かよわき我が身も　御力たより
嶮しき山坂　越えて従わん

四

高ぶれる心　打ち砕きたまえ
御霊の示しに　従わせたまえ
栄光の御国に　入るそのときまで
いつくしみ深き　主にぞ従わん

105 君はわが主



一

君いまさずば　喜びなく
君いまさずば　希望もなし
君はわがため　生命を捨てて
十字架の恥をも　忍び給いたり

二

君はわがもの　君はわが母
君は生命を　与えしとも
君はわが霊を　新たに造り
心の肉碑に　聖名を刻みたり

三

憂いは去りぬ　歎きも去りぬ
疑いの雲　晴れわたりぬ
歌えよイエスを　崇めよ聖名を
尊く気高き　わが主のみいさお

四

喜びに溢れ　御前に歌う
生命のかぎり　イエスを愛す
ものみな歌え　みさかえほめよ
ときわに輝く　御稜威は遍し

106　主は我が牧者なり



一

主は我が牧者なれば　乏しき事あらじ
主は緑の野辺に　我をふさしめ
憩いの水浜に　ともないたもう

(おりかえし)
たとい死の蔭を　歩むとも
主ともに在せば　恐れなし

二

主は我が霊魂を　活きかえらせ給い
御名の故に正しき　道にみちびく
笞も杖も　なぐさめなり

三

主は我が仇の前に　筵をもうけ給い
わが首にあぶら　注ぎたもう
わが酒杯は　溢るるなり

四

わが世にある限り　恵みと憐憫は
我に添い来らん　永遠に
我は主イエスの　宮に住まわん

107 忍　耐



一
わが行く道は　けわしくも
聖旨によりて　進み行かん
山なす宝も　うるわしき住居も
聖旨にあらずば　厭わまほし

二
妙なる愛に　いだかれて
苦しみ悩み　など怖れん
十字架の恥をも　忍び給いにし
主の御跡を踏みて　従い行かん

三
試みの時も　主いませば
栄光の冠を　望みて行かん
高きに在して　世を統べ給う主は
生命の光を　示したまわん

四
最後まで従わん　主とともに
世の友われを　捨つるとも
我らはイエスの　真の友なり
信じて進まば　報いうべし

108 世の光



一
絶え間なき苦労の　波風も
愛の光に　ささえられ
イエスの面影　しのびつつ
過越来りぬ　聖名を称えなん

二
御霊の御助け　受くるわれ
浮世の暗きも　何かあらん
月になずろう　イエスきみの
御姿したいて　進みゆかん

三
栄光かがやける　イエスきみの
御冠拝して　伏し拝む
罪の重荷も　かろやかに
十字架の御許に　おどるなり

四
妙なる御霊の　恵みもて
ヨルダンの岸辺を　渡りせば
父の約束　したまいし
光まばゆき　神の国

109 ヨブを見よ



一
試みのとき ヨブを見よ
力おとさず 主を仰ぎ
主与えたまい 主取り給うと
心の中に 讃美せり

二
病いの床に あるときも
ヨブの苦しみ 思い見よ
癒し主なる 主は速やかに
重荷をとりて 癒したもう

三
耐え忍ぶもの 勝利を得
主に近づかば 栄えうけん
恵みは永久に 添いきたりて
汝がすえずえの 幸い見ん

四
独りの御子の 十字架の死
血汐の痛み 知るを得じ
許しの道を 開きませるは
罪人たりし 我がためなり

110 ソロモンと百合



一
ソロモン栄華の ときさえも
野の百合の花に しかざりき
何をよそわんと わずろうな
人は聖言に よりて生く

二
食べ物着物も 不可思議に
与えられきし 旅の空
昔も今も かわりなき
主我に偕なり 恵みたもう

三
飢え年のときも 飽き足りぬ
エリヤはからすに 養われ
サレパテの粉は 尽きざりき
ああ奇しきかな 神の愛

四
讃美と感謝に 満ちあふれ
ハレルヤ歌えば 御使も
天よりくだりて 助けあり
御恵みときわに 尽きせざれ

111 愛と信仰



一

愛なき信仰は　銚鈸の音
喜びも感謝もなく　讃美さらになし
傷める心に　鞭を与え
苦しむ者に　痛みを与う

二

愛なき信仰は　野いばらのとげ
ふくよかな花辨もなく　芳き香りもなし
御霊のかがやきは　暗闇と消えて
道行く者の　さまたげとなる

三

神は愛なれば　愛にぞおらん
信仰と希望と愛は　生命の木なる
隣り人に安きと　なぐさめ与え
潤いある言葉は　主に嘉せらるべし

四

人を議することなく　己に死にて
日日己が十字架をとり　主にぞ従わん
善き行いと言葉は　徳をたてて
御国の石ずえ　げに堅うせられん

五

ハレルヤわが主の　尊き愛よ
九十九を牧場におきて　一匹の羊を
たずねたもう君なれば　我は慕う
仁慈しみ深き　神なるぞかし

112 我に来れ



一

愛に燃ゆるイエスを　仰ぎ見れば
世にある悲しみは　忘れ去りなん
目をあげて　高きを見よや見よや
誰かこれらの物を　創造(そうぞう)せしや

二

歌えばたのしき　御国(み)にあり
水と霊もて　われは生きぬ
もはや我　生くるにあらずあらず
主わが内にありて　生くるなり

三

重きを負える者　疲(つか)れし者
とく来り信ぜよ　主は待ち給う
血汐にて罪清まれば　アーメン
主は汝が力また　平安(やすき)とならん

四

恐れを取り去りて　主に従え
主は強き御手(み)もて　導きたもう
弱き者　来り憩(いこ)え憩(いこ)え
重荷をおろせ　主救いたもう

五

傷(いた)める葦(あし)をば　折ることなく
けぶれる亜麻(あま)をも　消すことなし
正義をば　勝ち遂(と)げしむるしむる
わが主の愛こそ　のぞみなれや

113 イエスいます



一

山の彼方に　イエスいます
海の彼方に　イエスいます
さくらの花の　咲くころは
北風みなみに　変っている

二

雲の彼方に　イエスいます
星の彼方に　イエスいます
緑の野辺に　歌うれば
草葉もおどりて　御名を讃む

三

やさしいイエスは　わがために
生命を捨てて　守りたもう
夜も日も休まず　かえりみて
いたわり励まし　助けたもう

四

くるしいときも　泣くときも
味方となりて　愛したもう
ハレルヤうたい　感謝すれば
御使ちかづき　ささえらる

五

祈りの声に　主は近く
讃美の声に　聞こしめす
心のとびら　ひらきなば
御霊となりてぞ　住まい給う

114 生命の聖言



一

ハレルヤハレルヤ　わが愛するイエスよ
生命の言を　今日も与えたまえ
妙なる恵みの　湧きあふる
救いのおとずれ　日日新たなり

二

努めよ努めよ　わが愛するイエスに
世界の子供は　主を待ち望みつつ
進軍ラッパに　力を得
平和の道をば　進み行く

三

栄えよ栄えよ　わが愛する国よ
輝くあしたは　間もなく来る
救いの泉は　ここに湧きて
イエスの聖言　成就せらるる

四

信ぜよ信ぜよ　わが主の聖言
御霊の祈りに　勝利を与え給う
高き御位の　よきおとずれ
聞こゆる我らの　救いは光る

五

讃美せよ讃美せよ　わが主を仰ぎて
迷える羊を　今日も尋ね給う
愛のかがやきは　ここに燃えて
炎は先立つ　栄光の道

115 奮い起て



一

奮い起て主の子供　朝の光に
ものみなかがやき　希望に満つ
エデンの園には　春おとずれ来ぬ
全能の主イエスの　昇り給いし日より

二

疲れしもののふも　生命の光に
新しき霊の　賜物を得
血汐の河わたり　進み行く道は
勝利の君イエスの　統べ給う神の国

三

ふるびきし人の伝え　頑固なる心
砕きし十字架は　今もかわらじ
さかえかがやく朝　救いの力の
御霊の御業と　誇りてたのしまん

116 子供のために



一
イエスの愛に いだかれて
傷める心は いやされぬ
われらを愛し かばいたもう
慰め主なる イエスきみ

二
イエスの愛に 目ざむれば
この世の旅路も 歌の道
苦しい坂も あるけれど
主はわが助けと なり給う

三
呼べば答える イエスきみを
今日も友として 励み行かん
ハレルヤ歌い 讃美せば
ゼルバベルの山も 平地たらん

四
感謝に生きて 讃美せよ
主は汝がうちに ましませば
祈りをつねに 真理の道
歌いつ昇らん 信仰もて

五
安息日を たのしみて
聖言より 進み行かん
義の冠は わがために
そなえられたり 主の子供

六
正しい道を 歩み行く
主の子供らに ほまれあり
悪魔のわなに 気をつけて
恐れず戦え 主によりて

117 主を待つ



一
イエスの愛は ここにくだる
イエスの愛は ここにくだる
やがて主と 一緒に会いましょう

二
イエスの愛を うたいましょう
イエスの愛を うたいましょう
やがて主と うたいましょう

三
水と霊を 求めましょう
水と霊を 求めましょう
やがて主に あいまつるため

四
イエスの御名を たたえましょう
イエスの御名を たたえましょう
やがて主を 仰ぐときまで

五
イエスと共に 忍耐しましょう
イエスと共に 忍耐しましょう
やがて主に いだかるるまで

六
感謝しましょう 喜びましょう
感謝しましょう 喜びましょう
やがて主の 再臨の日まで

118 おはようさん



一

私は可愛(かわ)いい　おじょうちゃん
お目目をパッチリ　あけました
今日もイエスさま　ありがとう

二

おうちのとなりの　子猫(こねこ)さん
おはようさんと　かおなでて
ニャンニャンニャンと　うたいます

三

こみちのむこうの　子犬(こいぬ)さん
おはようさんと　尾をふって
ワンワンワンと　うたいます

四

お山のおくの　こぎつねさん
おはようさんと　せきをして
コンコンコンと　うたいます

五

学校のおにわの　こばとさん
おはようさんと　豆たべて
ゴロッゴロッゴロッと　うたいます

六

私はおうちの　おにいさん
おはようさんと　がんばって
一、二、三、と　うたいます

（後唱）
ハレルヤと歌いましょう　皆一つの合言葉(あいことば)
ハレルヤと歌いましょう　皆イエス様ありがとう

119　主の祈りを歌えば





天にます主よ
聖名を崇めさせたまえ
御国をきたらせたまえ
御意の天になるごとく
地にもならせたまえ
日ごとの糧を
今日もあたえたまえ
我らに負債のあるものを
すべてゆるすごとく
我らの負債を赦したまえ
我らを試みにあわせ給わず
悪よりすくいたまえ
御国と能力と栄光は
世世に主のものなり

120 伝　言



一

調べて見なさい　水の深さを
調べて見なさい　水の深さを
（おりかえし）
心は安らぎて　喜び溢れ
感謝と讃美は　流れくる

二

歌ってみなさい　愛の広さを
歌ってみなさい　愛の広さを

三

祈ってみなさい　霊の高さを
祈ってみなさい　霊の高さを

四

頼ってみなさい　主の御名により
頼ってみなさい　主の御名により

121 予言によるイエスの誕生



一

大いなる歓喜の　音信を歌わばや
天地の王なる主　うまれ給えり
（おりかえし）
ハレルヤ主イエス　神の独子よ
小暗き闇夜を　照す世の光

二

我らはひとりの　嬰児を賜いたり
處女なるマリヤより　うまれ給えり

三

予言の文読めば　その名は奇妙
また平和の君　大能の神

四

世の罪を負い給い　十字架に捧げにし
イエスの御名こそは　世の望みなれ

122　古稀の祝によせて



一

嵐はすぎて　空　晴れわたり
磯辺の松も　喜び祝う
ときわに変わらぬ　みことば信じて
み栄あれと　主の御名をほむ

二

輝くあした　みふみ　ひもとき
真理の奥義　味わい知れば
世の煩らいも　富もほまれも
むなしく消えて　主を慕いゆく

三

七十路すぎて　祈の家に
御霊の子らと　共に集り
御国の富を　たずね求めば
夢まぼろしも　我をなぐさむ

四

逝きにし君を　心にうつし
伝えられにし　みことば思えば
力は湧きて　うれいは去りぬ
めぐみと誠に　さんびあふるる

（後唱）

恐るるなかれ　おののくなかれ
心強くし　喜び勇め

123　故村井監督追悼歌





天には栄光あれ　人には恩寵あれ
憐憫あれ　勇者は仆れたり
叫びつゝ　偉大なるかな
我等の責負いて　天には栄光あれ
人には恩寵あれ　憐憫あれと
今わの際の　祈りにも
我等を愛し　祝し給う
水と霊の　福音は
世界の果まで　ひゞきゆく
功は永遠に　輝かん

(頌栄)
天には栄光あれ　人には恩寵あれ
憐憫あれ　アーメン　アーメン

124　讃美したい子供のうた



一

真夏の暑い晝さがり　お庭の木かげでせみが泣く
何をミンミン泣くのでしょう　皆と一緒に讃美したい

二

雨降る夜のお月様　広いお空でなぜなくの
ほしの子供が見えないの　みんなと一緒に讃美したい

三

山のふもとできずついた　小羊メーメー泣いている
飼主イエス様見出して　御うでに抱いて歸ります

四

安息日の礼拝は　御言葉賜わる嬉しい日
霊と真の祈りもて　みぎわの群と讃美します

（後唱）

ハレルヤ再臨近し　ハレルヤ再臨近し
水と霊の道を　傳えよ、アーメン

125 ホザナ ホザナ



一

ホザナ、ホザナ　喜悦に溢れ
ホザナ、ホザナ　主を讃め称えん
ハレルヤの歌を　高くひびかせ
救われしかの日を　思い起こせよ

二

ホザナ、ホザナ　主を仰ぎ望まん
ホザナ、ホザナ　その日は近し
ハレルヤの歌を　朝夕うたい
再臨の主イエスを　慎みて待たん

三

賢きものも　愚かなるものも
ひとしく御手の　導きうけて
栄光の御国に　携挙られなん
重荷を負える者　来りて憩え

四

ホザナ、ホザナ　ハレルヤの歌を
ホザナ、ホザナ　高く歌わん
御霊の証は　いずみとなりて
うちより溢れ来ぬ　川川のごと

（後唱）

凡て疲れしもの　重荷を負える者よ
我に来れ来れ　我汝を休息ません

126　御恩は一生忘れません





一

御恩は一生忘れません
御恩は一生忘れません
わたしの為にイエス様は
十字架にかかり血潮を流し
三日の後に甦る
罪の贖い終えました

二

御恩は一生忘れません
ハレルヤ歌えば天開け
ヨエルの予言成就して
きよき御霊は降り注ぎ
イエスの御名のバプテスマ
洗足おえて主に帰る

三

そこには死もなく嘆きなく
神の御位のすばらしい
生命の光が煌煌と
心のなかを照します
愛の賜物身に受けて
神の世嗣は主を崇む

四

モーセの律法はきびしくて
罪を冒すなら死にました
今は恩恵の時なので
安息日は礼拝日
霊と真の祈りもて
我主の愛をほめ歌う

五

御恩は一生忘れません
患難の日には御名を呼び
苦しい時は主に依頼
困った時は祈ります
愛と真の磐なる主
信じて私は讃美する

（後唱）

歌え 歌え 声高く
御国の門の閉じぬ間に
讃よ 讃よ 主を讃よ
天地の主あもります

127　イザヤ書三十五章より



一

あれのに水は　わきあふれ
さばくに川は　流れくる
焼けたる砂地は　池となり
サフランの花　咲き香るらん

二

なえたる手をば　強くせよ
弱れるひざを　立たしめよ
男々しく立ちて　恐るるな
主は来りたもう　救いたもう

三

その時めしい　目は開き
その時みみしい　きこゆべし
足なえたるもの　とび走り
唖の舌は　歌うたわん

四

彼処に獅子は　居らずなり
聖なる道と　となえられん
けがれし者は　入るを得ず
主の民の為に　備えらる

五

水と霊に　義とせられ
あがない受けし　神の子ら
シオンの大路を　よろこびて
ハレルヤ歌いつ　進みゆく

(後唱)

一

歌えハレルヤ　歌えハレルヤ
喜びの歌を
歌えハレルヤ　歌えハレルヤ
ハレルヤ高く

二

歌えハレルヤ　歌えハレルヤ
ハレルヤの歌を
歌えハレルヤ　歌えハレルヤ
聖霊きたる

128　我山に向いてめをあぐ



一

我山にむかいて　目をあぐ
我扶助いずくより　来るや
扶助は天地　すべ給うイエスの
恵と真の　御座より来る
讃美せよイエスを　天地の主

二

我山にむかいて　目をあぐ
雲に聳ゆる　高嶺も
静けく黙せど　主を仰ぎ見て
奇しき御業を　永遠世に示す
讃美せよイエスを　創造の神

三

我山にむかいて　目をあぐ
黒雲み空を　覆うとも
山山連り　主を頼みなば
嵐は過ぎて　朝日は昇る
讃美せよイエスを　大能の神

四

我山にむかいて　目をあぐ
夕日に映る　シオンの山
十字架の御旗は　高くひるがえり
救の泉は　全地に流る
讃美せよイエスを　全能の神

五

我山にむかいて　目をあぐ
臨在輝く　神の宮
御霊の恵みは　雨と降り注ぎ
御国の世嗣は　常磐に栄ゆ
讃美せよイエスを　祝福の神

129 神は愛なり



一

げに尊きかな　神は愛なり
慈愛み深き　その御言よ
山なす宝　陰をひそめぬ
求めよ尋ねよ　愛の御神を

二

磐間に隠れし　わが鳩よ子よ
我に美しき　声をきかせよ
汝の面は　茨のなかの
白百合の花に　さも似たるかな

三

御位を捨てて　あれませる主は
心の祈ごと　受け入れ給う
石垣ならば　白銀の城
その上に建つと　宣う主なり

四

患難の時には　我名を呼べと
御霊を賜いて　慰さめ給う
永遠までも　われは汝を
孤児とせずと　約束し給う

五

穢れし心は　潔く洗われ
雪よりも白き　衣を賜う
やがて御前に　立つその時は
神は愛なりと　主を讃めたとう

130　聖徒の感激



一

讃よ主を讃よ主を　我らの主イエスを
称えよ称えよ　真の救い
新に生れて　神の実子となる
今日もハレルヤ　明日もハレルヤ
救いの舟を　漕ぎ出だせよな

二

仰げ主を仰げ主を　御霊の主イエスを
崇めよ崇めよ　復活の主
死の刺いまは　何処にありや
御霊は中に　宿り給いぬ
生命の光　差し出でたれば

三

伝えよ伝えよ　水と霊の福音
歌えよ歌えよ　その喜悦を
永遠の生命は　今注がれて
御国の民と　国籍賜う
その御印に　異言の保証

四

栄えよ栄えよ　イエス之御霊教会
進めよ進めよ　世界を巡り
再臨のラッパ鳴る　その時までは
励み戦わん　生命のかぎり
義の冠は　準えあるなり

五

ハレルヤハレルヤ　王なる祭司
輝く栄光　目のあたり見て
シオンの大路を　勝ち進みなば
讃美の声は　天に轟き
聖徒の群は　炎のごとし

131 栄光の王


1. よめのよヤ めーあーびールー ぐるろーーどーレー なはよかハ
2. よめはのヤ めーあれーじールー さのずーーんレー なあおなハ
3. ーてくよよ ーーーえよ ーーーえた をふごあた
4. みーーーーをめー たよんべほーー がどげうをー わほよこ主
5. をびてわん みすきまも たむりたた のをぼりべー 主みのいす
6. よくるのき めーーうよ うーらちも ぐどにーかエ なぶく王
7. よはりスて めーーよイ さうーーーー ぐちいいは ない日え主
8. ぬりぬやり ーーーーあ げてしーー つまさぞに
9. のはてのの きほはこうき えーーらー くなのいた ふいちえは
10. にてもはは でりーーい すのでーた きみま王あ
11. ををはるえ れーーーま りいりなみ わりかれの おかひたそ
12. てをてりう にびになも とこざ主た
13. ーーーのい もろみりな みよみがや ののぐみれを 主こめよむ
14. いうてのしゃ ややりうこく ざざたいはーぼ わたい王の わわこーーご ーんえはく ーーーとー いいきえ主
15. (後唱) いざーみな きたりて ほめーたた えん
16. えいこうの 王ーは きたりたもう

一

慰めよ慰めよ　わが民を
慰めよ慰めよ　主の民を
服役の期すでに　終りを告げぬ
いざや祝わん　主の御許にて

二

春の雨秋の雨　ほどよく降りて
無花果葡萄は　果を結び
稲穂は実りて　収穫を待てり
いざや歌わん　この喜悦を

三

歓喜の音信は　予言のごとく
日いずる国より　昇り来て
地の極までも　光はさしぬ
来りて憩え　恩恵の御座にて

四

門よ汝の　首をあげよ
栄光の王イエス　いり給わん
栄光の王は　たれなるぞや
栄光の王は　復活の主なり

五

ハレルヤハレルヤ　主を讃称えよ
主は強き能力もちて　統べ給う
はたらきの値は　その御前にあり
主は牧者のごとく　群を養い給う

(後唱)
いざ皆来りて　讃め称えん
栄光の王は　来り給う

132 大聖会



一

天地の王なる 我が主イエスは
世の成らざる前より 我を選びて
新婦の備え なさせ給うなり

（おりかえし）
大瀑のひびきに 渕渕は呼びこたえ
猛浪われを こえゆけり

二

御霊の賜物 この身に受け
永遠かわらず 御名を呼ぶ
しかの渓水の 水をしとうごとく

三

天の川に水満ちて 祝福あふれ
大瀑は流れ来ぬ 聖徒らの上に
御使も共ども 主を讃めいたり

四

いまだ見ず聞かぬ事 思わぬこと
大いなる能力は 主より来りて
能力より能力に 勝ち進みゆく

133 御足の跡



一

南の極なる　島島めぐり
我が主は迷える　羊を尋ね
荒波猛る　海を渡りて
救いの道を　宣べ伝え給う

二

カルバリの丘を　十字架背負い
登り給いける　御足の跡よ
永遠までも　記念せしめよ
血潮は今も　語り給える

三

大能の御能力に　復活まして
携え挙らるる　御殿は建ちぬ
栄光の輝きに　御使い降り
歌の調べに　主を仰ぎ見る

四

ヘルモンの山より　富士の高嶺より
尊く気高き　我が主の愛よ
御霊の賜物に　我ら潤い
生命の道を　勇みて進む

五

ガリラヤの湖の　強き風やみて
猛りし荒波も　静まりにけり
浮世の荒波も　やがて静まり
栄光ときわに　照り輝かなん

(後唱)
ハレルヤ主イエス　恵み深く
その憐憫は永遠に　たゆる事なし

134　誕生祝い



一

今日は私の　誕生日
春夏秋冬　巡り来て
見事に咲いた　花の宴
感謝と讃美は　あふれくる

二

元気で大きく　なりました
父さん母さん　有難度う
主も又共に　働いて
み恵みゆたけく　ふりそそぐ

三

知恵もよわいも　いやまして
神と人とに　愛せられ
此の世の旅路も　やすらけく
主の御手の内に　勝利する

四

雨降る夜も　風の日も
御使つかえて　守りたもう
主の子供らの　幸を
ハレルヤ〳〵と　うたいます

135　世に知られぬ喜び



一

楽しくて楽しくて　喜悦くて喜悦くて
笑ってる歌ってる　喜び溢れて讃美する
ハレルヤハレルヤ　御国の子等は
朝昼夜も何時何時までも　歌って讃美する

二

アブラハム、イサク　ヤコブの神様
ダビデの裔より　生れませるイエス君
ハレルヤハレルヤ　復活の主
救いの道を開き給いて　我らの中に在す

三

エリヤもエリシャも　我らと同じ人
信仰もて祈る時　奇蹟も不思議も伴なって
ハレルヤハレルヤ　全能の神
キリスト・イエス御業をなして　我らを助け給う

四

我が子よと呼び給い　我が友と呼び給う
主イエスの愛をしる　福祉を身につけて
ハレルヤハレルヤ　神の実子となり
恵みと愛に泉のごとく　歌って証する

五

水と霊くぐるとき　御使は手を打って
アバ父と呼びまつる　子たる霊を讃美する
ハレルヤハレルヤ　永遠までも
世嗣となして祝し給える　主を慕いつ進まん

136 天界の声、地界にこだまする聖徒の祈り



一

神は神はその独子を　その独子を賜うほどに
世を愛し給えり　世を愛し給えり
愛し給えり　愛　愛し給えり
すべて彼を信ずる者の　信ずる者の亡びずして　亡びずして
永遠(とこしえ)の生命(いのち)を　永遠の生命を　得しめんがためなり

二

人は人は水と霊にて　水と霊にて新たに生れ
神の実子(み こ)となる　人は水と霊にて新たに生れ
主に属するものとなり
血汐により罪潔められあがないうけて御霊を賜う　御霊を賜う
永遠の生命を　永遠の生命を　得しめんがためなり

137 証の幕屋



一

証の幕屋は　臨在あふれ
外には焔の　垣となり
はるばる集いし　剛勇丈夫の
雄哮きて　奮い立つ

(おりかえし)
野辺よ伝えよ　山よ叫べよ
猛波手を打ち　主を迎こう

二

贖い主なる　主よ疾く来ませ
我らは御霊の　証人
栄光この身に　映し来て
万の国人　手を繋ぐ

三

主イエスの幕屋に　登るは誰ぞや
その手は清く　潔く
心に真の　祈りあり
イエスの御名に　帰するもの

四

再臨の主による　望みは失せじ
暗きは過ぎ去り　新天地
御国の朝は　ほのぼのと
明けゆくみ空に　さも似たり

138 大感謝



一

ハレルヤ歌いて進む　シオンの大路は楽し
導き給えるイエスは　全能の神
大いなる感謝もて　御前に平伏し
新しきほめ歌　歌わばや

二

天は歓喜歌い　地は楽しみおどる
星は輝きまして　聖書は光る
大いなる感謝もて　御前に進めば
デボラの勝ち歌　ながれくる

三

雲霧はれたれば　緑の色冴えて
御国の面影に　再臨を待つ
大いなる感謝もて　御前に近づき
すべての重荷を　委ねよや

四

イエスの御名に　日ごと夜ごと祈り
感謝に満ち溢る　聖徒の交際
大いなる感謝もて　御許に侍れば
豊けき御恵み　降り注ぐ

139　恩寵の御翼(詩91より)



一

至高き者のもとなる　全能者の蔭に宿らん
御翼のもとにて　我は安ろう
彼その翮(はね)をもて　おおい給うなり

二

昼は飛び来たる矢あり　暗きにはえ病あり
されども恐れあらじ　主は我が城なれば
御使いをつかわし　守らせ給う

三

千人は汝の左　万人は汝の右に
倒るる事あるも　禍近づかじ
主は憐み深ければ　平和は絶えず

四

恩寵の御翼に　乗りてぞ進みゆかん
智恵もて能力もて　ささえ給えば
主は我がよりたのむ　岩又やぐら

五

御位を捨てまして　我等を贖い
永遠の生命を　与え給える
その御心慕いて　よろこび称えん

（後唱）
我が恵み汝に足れり
我が恵み汝に足れり

140 教訓

（詩卅一篇）





悪きものの謀略にあゆまず
罪人の途にたたず
嘲るものの座にすわらぬ者は さいわいなり
かかる人は主の法をよろこびて
日も夜もこれをおもう
かかる人は水流のほとりにうえし樹の
期にいたりて実をむすび
葉もまた凋まざるごとく
その作ところ皆さかえん
その作ところ皆さかえん
ハレルヤ主よ汝の泉は涸ず
永遠までも湧き溢る 湧き溢る

141　新生の春



一

春が来る春が来る　甦り
春が来る春が来る　アロンの杖
芽をふき花が咲き　果がなって
ハレルヤ歌うは　神の子ども

二

友よ来よ友よ来よ　いざ歌わん
聖なる聖なる　甦り
新たに生れて　神の実子たり
ハレルヤ歌いて　主を崇めん

三

山越え谷渡り　友よ来よ
冬は過ぎ春は来ぬ　梅の花
色香も気高く　主を崇む
我らも薫りて　讃称えん

四

讃美せよ讃美せよ　再臨の
ラッパ鳴り轟く日　近づきぬ
主に在る人々　眠りより覚め
我らも続いて　主にまみゆ

142　主による信仰の望み



一

春風そよぎて　恵みの花咲き
小鳥はさえずり　神の子等は主を讃む
朝露は光りて　救いの道は
新たに生れよと　御声聞こゆる

二

栄光受け給う　神の人イエスは
我らを救う為　十字架に死に給う
その血は贖罪(あがない)の　日の為なれば
我らは喜びて　従いまつる

三

約束の御霊を　御手(みて)より受けて
安(やす)けく渡(わた)らん　この世の旅路
死のかげの谷間も　御使と共に
ハレルヤ歌いつつ　御許に昇(のぼ)る

四

終りのラッパ鳴り　轟きわたれば
人々眠りより　覚めて御名を呼ぶ
我らは瞬(まばた)く間に　化(か)して甦り
栄光の御許に　王なる祭司

(後唱)

ハレルヤハレルヤ　王なる祭司
御国の礎(いしずえ)　動(うご)かじな

143 世界の果まで



一

山よりも高く　海よりも深き
神の愛を悟り　喜びあふる
御聖言の泉は　盡きせぬ生命
心の痛みを　洗い清むる
（おりかえし）
世界の果まで　十字架の福音
宣べ伝えばや　水と霊

二

大空は広く　計り知るを得じな
雲は何処より　いずくに走る
世界の果まで　かけめぐり行き
救いの御旗を　高くかかげなん

三

夕焼の空は　七色に染まり
明日も晴れなりと　証を賜う
御国の扉は　日々新たに開き
導き給うは　王なる主イエス

四

御霊の法は　自由と平和
智恵と能力の　主をたのみとし
祈りて信じて　従い仕えん
へだての幕屋は　こぼたれにけり

144　主を慕いて



一

歌いましょうハレルヤ　御国の子等の歌を
歌いましょうハレルヤ　朝な夕な祈って
沙漠には河ながれ　枯木には花咲き
雄雄しくそだつは　神の国の子供等

二

称えましょうハレルヤ　尊き主の御名を
称えましょう御霊の　聖き愛の御言葉
苦しみはすぎ去り　なぐさめの雨降る
悲哀は消えゆき　歓喜のはな咲く

三

捧げましょうハレルヤ　この身も魂も
捧げましょう真心　肉の慾をはなれて
十字架に死ぬほどに　従いたまいしは
罪の世の暗より　我を救わんため

四

崇めましょうハレルヤ　天地の主イエスを
崇めましょうイエスの　祝福の御霊を
臨在輝く　我らの教会
御国の姿の　映る鏡とぞなる

五

慕いましょうハレルヤ　ナルダの油もって
慕いましょうハレルヤ　何処までも従い
涙にむせびて　御足を拭いし
マグダラのマリアに　優る愛の心で

（後唱）
ハレルヤと歌えば　ハレルヤと応える
御国の歌は山山を　揺りうごかしぬ
ハレルヤと歌えば　ハレルヤと響きて
御国の歌は至高く　のぼり花と咲き匂う

145　ハレルヤ歌わん



一

大空は巻き去られ　地は崩るるとも
我らは恐れなし　主の御手にあれば
輝く朝を　望みて進む
主の子供等よ来れ　ハレルヤ歌わん

二

猛波は寄せ来り　舟は呑まるとも
我らは恐れなし　主の御手にあれば
下には永遠の　御腕ありて
救い給う故に　ハレルヤ歌わん

三

イエスの御名により　洗われたれば
仇の寄せ来るも　勇ましく進まん
主は天の万軍もて　来り給えば
雄雄しく戦いて　ハレルヤ歌わん

四

死よ汝の刺は　何処にありや
黄泉の門は開かれぬ　墓は崩れたり
大地は揺るぎて　甦りの主
弟子等と親しく　交際給う

五

ペンテコステの日に　大風の如き
轟く音と共に　御霊降りけり
己が国語を　語るを聞きて
人皆驚きぬ　ハレルヤ歌わん

六

終りのラッパ鳴りて　携えあげらる
我らの喜びは　御国を揺がし
主イエスの御衣は　全天を覆い
人みなこれを仰ぐ　ハレルヤ歌わん

146 いやされたり



一
癒されたり 活かされたり
癒されたり 活かされたり
我懼れなし 我感謝せん
癒されたり 活かされたり
癒されたり 活かされたり
我懼れなし 我感謝せん

二
汝の信仰
汝の信仰
汝を救えり
汝の信仰
汝の信仰
汝を救えり

三
癒されたり 活かされたり
癒されたり 活かされたり
我懼れなし 我感謝せん
癒されたり 活かされたり
癒されたり 活かされたり
我懼れなし 我感謝せん

147 神癒の聖歌



一
十字架の功 讃めたてまつる
血汐のちから いともたえなる
(おりかえし)
ハレルヤ ハレルヤ 癒されたり
ハレルヤ ハレルヤ 癒されたり

二
十字架のうえに 罪も穢も
憂も悩も とり去られたり

三
ながく求めし 我身の救い
今ぞここにて 得しぞ嬉しき

四
わが身も霊も 贖われたり
今より永久に 主のものなれば

五
永久に変らぬ 救いの力
主イエスの慈愛 讃めたてまつる

148　王の王なる主



一

ハレルヤ　ハレルヤ
栄光わが主にあれと　うとう
ハレルヤ　ハレルヤ　グローリー　グローリー
キングオヴキングス　キングオヴキングス
キングオヴキングス
王の王なる主イエス
(おりかえし)
キングオヴキングス　キングオヴキングス
ハレルヤ　ハレルヤ　ハレルヤ　ハレルヤ
ハレルヤ　アーメン

二

ハレルヤ　ハレルヤ
十字架の血潮は流れくる
ハレルヤ　ハレルヤ　水と霊との救い主
キングオヴキングス　キングオヴキングス
永久(とこしえ)までともにます

三

ハレルヤ　ハレルヤ
再臨間もなく来りなん
ハレルヤ　ハレルヤ　たずさえあげらる日ぞ待たる
キングオヴキングス　キングオヴキングス
油をととのえ　主にまみえん

149　みたまの声す



一

春にさきがけて　咲く梅の花
ゆかしき香もて　主をほめたとう
海の彼方の　外国々も
ハレルヤ　ハレルヤ　御霊の声す

二

御霊の風吹けば　心やすらぎ
御国の幸いに　喜び溢る
とくせんの民の　誓いをたまい
ハレルヤ　ハレルヤ　御霊の声す

三

冥よりのぼりて　御霊をたまい
全ての重荷を　背負いたまえり
昼も夜も　出づるも入るも
ハレルヤ　ハレルヤ　御霊の声す

四

主に従う道は　花咲き香り
御霊の木の実は　豊かにみのる
その道すじに　油したたり
ハレルヤ　ハレルヤ　御霊の声す

150 証し人



一

荒野によばわる　声の聞こゆる
いなごと野みつを　食らいて立てり
我れより後に　来る者は
之ぞ神の人　羔羊(こひつじ)なりと

二

遠きむかしより　此の世にありて
主のため命を　捨てし御弟子等
みたまにみたされ　炎の如く
十じかのイエスを　のべつたえけり

三

稲ほは実りて　ゆたかになれど
主を慕うやから　いともまれなり
再臨ま近に　せまり来(きた)れば
みのりゆたかなる　あしたは近し

四

救いの道は　せまくあれども
みふみの奥義を　学ぶ楽しさ
長きねむりより　目をさませよな
水と霊の門　いともたえなり

151 母を偲ぶ月



一

昔も今も尚　我が母の
面影さやかに　写る月夜
何処に居ますや　露知らねど
信仰と望と　愛は残りぬ

二

聖言頼りて　幾年を
主に従いつ　過ぎし此の世
闇夜も光に　輝きぬと
御霊の月は　語らい給う

三

慰め主なる　主は常に
我そばにありて　かばい給う
地をつぐ子等には　幸あれと
優しき御言葉　月に寄せくる

四

神の子とせられ　住む御国は
母なる都の　奥御殿
ふるさとふるさと　主共にまし
永遠に聖なる　神の国かな

152 終りに



一

さよなら皆さん
また会う日まで
神の御翼の
陰に憩わまし
さよなら皆さん
ハレルヤハレルヤ
祝福と恩恵
憐憫あれ

二

さよなら皆さん
また会う日まで
主イエスの御名により
平安かれと祈る
さよなら皆さん
ハレルヤハレルヤ
祝福と恩恵
憐憫あれ

153　我等の望み



一

我等はイエスのうず宝
光り輝くものとなる
世界を照らす御光を
受けてぞ育たん　神の子等

二

我等は主より賜わりし
御霊の進む道をゆく
海山越えて主を称う
水と霊による祝福の道

三

恵みによりて選ばれし
この身の幸い歌わばや
主の御名背負い畏みて
日々伝えゆくは喜びなれば

四

我が国籍は天にあり
美しき極みのシオンより
光さしきて永久に
世嗣となりにし栄光の国

（後唱）

讃美せよイエスを
われらの望み
ハレルヤ歌え
我等の君を

154　私の神様唯一の主(その1男子用)



一

私の神様　唯一の主
ヨシュアの如くに河渡り
カナンの土地へと進みゆき
勝鬨の声は野山にひびく
信じて従い　勝ちを得る

二

私の神様　唯一の主
ダニエル夢みて予言する
救いを施す神なので
シャデラク・メシャク・アベデネゴらも
炎の中から　救いたもう

三

私の神様　唯一の主
イザヤの予言によりて成る
犠牲となった　神の人
愛と誠と智恵と能力と
全能の主なる救い主

四

私の神様　唯一の主
その名はキリストイエス君
十字架の血汐は新生の
生命を与えて再臨を待つ
携え挙げらる日の為に

154　私の神様唯一の主(その2女子用)



一

私の神様　唯一の主
海山こぞって　主を崇め
お日様ニッコリ笑ったら
ピーチク小鳥がハレルヤ歌う
私も一緒に歌います

二

私の神様　唯一の主
夜　昼まどろむこともなく
助けて護って教えらる
愛の溢れくる　やさしい主です
真実の救いの御霊です

三

私の神様　唯一の主
夕焼けの雲の沈む頃
かもめはお宿へ飛び帰り
磯辺の松葉が　ゆらゆら揺れて
輝く星影　世を照らす

四

私の神様　唯一の主
その名はキリスト　イエス君
十字架の血汐は新生の
生命を与えて再臨を待つ
携え挙げらる日の為に

155　天上の讃美



一

ハレルヤ　ハレルヤ　ハレルヤ　アーメン
ハレルヤ　ハレルヤ　ハレルヤ
憐みに富み給う　愛の主　我が神
栄光　永久にあれと　歌う

二

ハレルヤ　ハレルヤ　ハレルヤ　アーメン
ハレルヤ　ハレルヤ　ハレルヤ
生命の木にゆく水と霊の門
潜りてぞ　行かん　天津都　さして

三

ハレルヤ　ハレルヤ　ハレルヤ　アーメン
ハレルヤ　ハレルヤ　ハレルヤ
御恵みに溢るる契約は変らじ
我はアルパなり　オメガなりと宣う

156　エルの神



一

大風の中に主在さず
地震の中にも　主いまさず
エニシダの許の　エリヤよと
細き御声　聞こえけり

（折返し）

昇れよ　上れよ　驚のごと
翼を張りて　舞い翔けらん
ハレルヤ　ハレルヤ　エルの神
御国の空は晴れ渡る

二

導き給うは主の御霊
わがまま捨てて　御声　聴け
心の中に眠ってる
御霊よ　常に目を覚せ

三

従うことは　羔羊の
脂に　優って喜ばる
ハレルヤ歌いつ　祈りつつ
導かるるまま　進み行かん

四

その名はインマヌエルと称のう
イザヤの予言に現われし
我が友わが父　我が栄光
御霊を賜いし　エルの神

157　恵みの御座



一

厳かなる主の恵みの御座にて
祈る禱の　尊さよ
生命の書に　記されたる
常世の国は　天下りぬ

二

親族　輩は　今如何にやと
心の想い　馳せゆけど
栄光輝く　臨在のもと
血汐の泉に溶かされにけり

三

平安に囲まれ　喜び溢るる
千代　萬代に　類もなき
御霊を賜いし　この身の幸は
幾年　過ぐるも　忘れやはせじ

四

聖所の御前に祈りしハンナの
祈はきかれ　サムエル生まる
思いにも勝る答をたもう
アバ父と呼びまつる
主は　愛の極み

（後唱）
恐るる勿れ　戦慄くなかれ
我が選びし　ヤコブよ
我が愛する　子等よ

158　神の子の歌


1.みめぐみたたえつつのぼりゆくうをて
2.とこしえかわらぬあいをたまものし
3.つくりぬしイエスよあみすくわれ
4.そこなきあなたかしこくこたえ
シオンのおおじきかつゆのなつくの
イエスのおおくはをてしーびみもえもくも
こーこーろとやけるたまーまみなたも
ひかりかがやけるたまーまーまー

159　羔羊なる主を崇む



一

歌えよ歌えよ　声高らかに
羔羊なる主は　御座に着けり
御使い達も　声を合わせて
冥土より　昇りし主を讃美せり

二

称えよ　称えよ　甦りの主を
血汐は流れぬ　世界の果てまで
冥土の暗きに　光差しきて
夜昼閉さず　門開きたり

三

伝えよ伝えよ十字架の功績
尊き御座より　大河流れて
生命の木の実は　月毎　実り
都の大路は賑わいにけり

四

ハレルヤ　ハレルヤ　ハレルヤ歌え
生命の御書に　記されし者
王なる主イエスは　夜明けの明星
水と霊の救の光

五

聖なる聖なる歓喜び溢る
御国の世嗣は　新嫁なれや
讃美の衣服を身にまといつつ
花婿なる主を　慕いて進む

160 復活の朝



一

朝 未明に 起き出でて
マリアら二人は 主を慕い
イエスの屍体を 拝せんと
急ぎて山に 馳せ行けり

二

十字架の上に血を流し
死に給いにし イエス君は
御墓の中には 居まさずに
輝く 御使 立ちませり

三

石の扉は 転び落ち
主は甦りたり ハレルヤと
御告げ受けたるマリアらは
急ぎて 弟子らに告げませり

四

弟子らに会いて 安かれと
主は宣まえり 恐るるな
ガリラヤに行きて 見えんと
初穂となりて 進みたもう

五

この福音を 諸人に
行きて告げよや 我が弟子ら
水と霊との救い主
陰府より 昇りて甦る

161　汝らは世のものならず



一

死の刺　今は何処にありや
死の陰　今は何処にありや
世にある限り　ハレルヤ歌わん
主共にませば　恐れはあらじ

二

世に勝ちまして　甦りにし
神の独子　勝鬨あげて
陰府の扉は　開かれにけり
永久までも　我平安あり

三

ハレルヤ歌い　感謝に満ちて
君の功績を　讃めつつ進まん
義の冠は　我が為にあり
走るべき道　走れよ友よ

（後唱）

喜び　楽しみ
讃美せよ　イエスを
古きは　過ぎ去り
新しき朝

162　祝福を受けよ



一

ランララ　ランララ　ランララ　ラン
臨在輝き光り来ぬ　ハレルヤ　ララ　ハレルヤ
イエスの御名にてバプテスマ　ハレルヤ　ララ　ハレルヤ
選び別かたれて主に帰れ　主は甦りぬ疾く来り
祝福受けよと　招き給う

二

ランララ　ランララ　ランララ　ラン
携え挙げらる教会の　ハレルヤ　ララ　ハレルヤ
進軍ラッパに続けよや　ハレルヤ　ララ　ハレルヤ
世に勝ち給いし主を慕い　栄光輝くシオンの道
歌いつ昇らん　神の国

三

ランララ　ランララ　ランララ　ラン
平安汝にあれと言う　ハレルヤ　ララ　ハレルヤ
喜び溢れて水と霊　ハレルヤ　ララ　ハレルヤ
信じて賜いし賜物は　天地物皆輝きて
創造の神の　世嗣たり

四

ランララ　ランララ　ランララ　ラン
御霊を賜いて限りなく　ハレルヤ　ララ　ハレルヤ
金銀　宝石　物ならで　ハレルヤ　ララ　ハレルヤ
十字架の血汐にあがなわれ　永久変らぬ愛を受く
契約の箱の宝物

163　迷える者よ来たれ


1. よ　もの　と　くかーえりー　きくきたす　こ
2. はも　ぜし　ふみ　きあーれもー　たるたりに
3. みもし　かにあ　おほ　なみーもーー　りこてに
4. はきなん　いりた　しお　わりーきーー　てにも
5. るみもはき　たりし　ほお　うとうむー　すこも
1. まよひやか　えなしてりえ
2. よのがかえ
3. ま
4.
5.
1. てもつなんし　いかうよち　ずがちゅーち　のくをもりー　みやうきよー　ずおやまし　ののまはを　みいこすほ　てはてのて　もみりいり　てずぞくふ　まわほもこ　きあまひも　ねきめんろ　たふつらを　まるるけあ　つりりりえ　いななたた
1.
2.
3.
4.
5.
1. なみイエおゆ　んくスそび　じにこるわ　ののそるを　かさなこた　りわじない　えいんとまい　をいのくて　びるを主たの　ちみちえりげ　まくちかかん　もえなれえ　うんりよん
2.
3.
4.
5.
1.
2.
3.
4.
5.
1.
2.
3.
4.
5.
1.

164　祈りの家



一

ただ主のみ居ませり　ただ主のみ居ませり
ただ主のみ居ませば　夜も日も忘れて
御国の心地す　ハレルヤ　ハレルヤ

二

ただ主のみ居ませり　ただ主のみ居ませり
輝く臨在　聖堂を包みて
我が家は　祈りの家と称えらる

三

ただ主のみ居ませり　ただ主のみ居ませり
愛に満ち溢るる　活ける河流れて
砂漠にはサフランの花咲く　ハレルヤ

四

ただ主のみ居ませり　ただ主のみ居ませり
水と霊の福音　聖書の奥義は
巌となりけり　ハレルヤ　ハレルヤ

165　死線を越えて



一

夜明けの星影　消えゆく頃に
義の冠を　頂きまして
過ぎし日の御恵みを想いなば
神の愛は　深くして測り難し

二

御使等の歌声　谷し来たれば
迎えの車に　乗りてぞ行かん
真白き衣に　風吹けば
聖歌の花園に　胡蝶は舞う

三

罪も　汚れも　洗い流され
憂きも悩みも　陰府に消えゆく
打たれし　御傷に　癒しもの
聖徒らと共に　主を称う

四

乳香　没薬に　花束そえて
御国の門に　立つぞ　嬉しき
いざいざ　潜らんバプテスマ
御霊は　永久に　子なる印標

166　御霊の愛



一

御霊の愛はいと高く
御霊の愛はいと広し
朝日に照りいづ　富士の山
夕日に輝やく　ヘルモン山

二

御霊の愛は全世界
いずくの果てにも救いあり
みなしご　やもめをかえりみて
エリヤを遣わしぬ　サレパテに

三

御霊の愛はいと清し
十字架の血汐に洗われし
罪人たりし　我らをも
御国の世嗣となしませり

四

御霊の愛は情けあり
ガリラヤ湖畔に網打てる
すなどり人をも　弟子となし
教えをたまいし　イエスなれば

五

ペンテコステの日のごとく
御霊の炎の降りなば
誰か断ちえん　異言もて
祈りつ歌いつ　主をあがむ

167　群衆の行進歌


水と霊と水と霊と水と霊と水と霊と
ホーラリー　ホーラリー　ホーラリー　ホーラリー
ホーラリー　ホーラリー　ホーラリー　ホーラリー
水と霊と水と霊と水と霊と水と霊と
ホーリティー　ホーリティー　ホーリティー　ホーリティー
ホーリティー　ホーリティー　ホーリティー　ホーリティー
水と霊と水と霊と水と霊と水と霊と
主イエスのみ名にみさかえあれかし
主イエスのみ名にみさかえあれかし


十字架のうえにみひかりあれーや
十字架のうえにみひかりあれーや　よは
ふけわたりあしたちかづくおき
よおきよときはちぢまれり
水と霊と水と霊と水と霊と水と霊と
シオンのむすめらよろこびてうたえ
ハレルヤハレルヤハレルヤアーメン
シオンのむすめらよろこびてすゝめ
ハレルヤハレルヤハレルヤアーメン

頌　栄



天地の主なる
唯一の神
キリストイエスに
みさかえあれ
栄光と能力
富と尊崇は
世世に限りなく
主のものなり

作者の言葉

ハレルヤ
栄光とこしえに主の御名にあれ
奇しきかな主は我が口に歌を入れ給えり新しき歌我等に与えらる
こは安きなり、慰めなり生命の光なり
天上より流れ来し祝福のうた霊讃歌
幸いなるかな主をほむる口びるの果はとこしえの生命と共に限りなく豊かに
信仰と祝福を子と孫とに伝えるであろう

鶴原　玉

あたらしき歌をエホバにむかひて歌へ、そは妙なる事を行ひ
その右の手その聖きかひなをもて、己のために救をなしをへ給へり
（詩篇九八篇一節）

エホバをほめたゝへよエホバに対ひて新しき歌をうたへ
聖徒のつどひにてエホバのほまれをうたへ
（詩篇一四九篇一節）